

4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区情報の入手手段
 - (2) 必要とする区情報
 - (3) 必要な時に必要とする区情報の入手状況
 - (4) 区情報が得られない理由
 - (5) 区情報が得られない理由の詳細
-

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段

■ 「あだち広報」が7割強で変わらず首位、「インターネット」も漸増を続け今回は次点に

問14 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

(○はあてはまるものすべて)。

図4-1-1-① 経年比較/区の情報入手手段

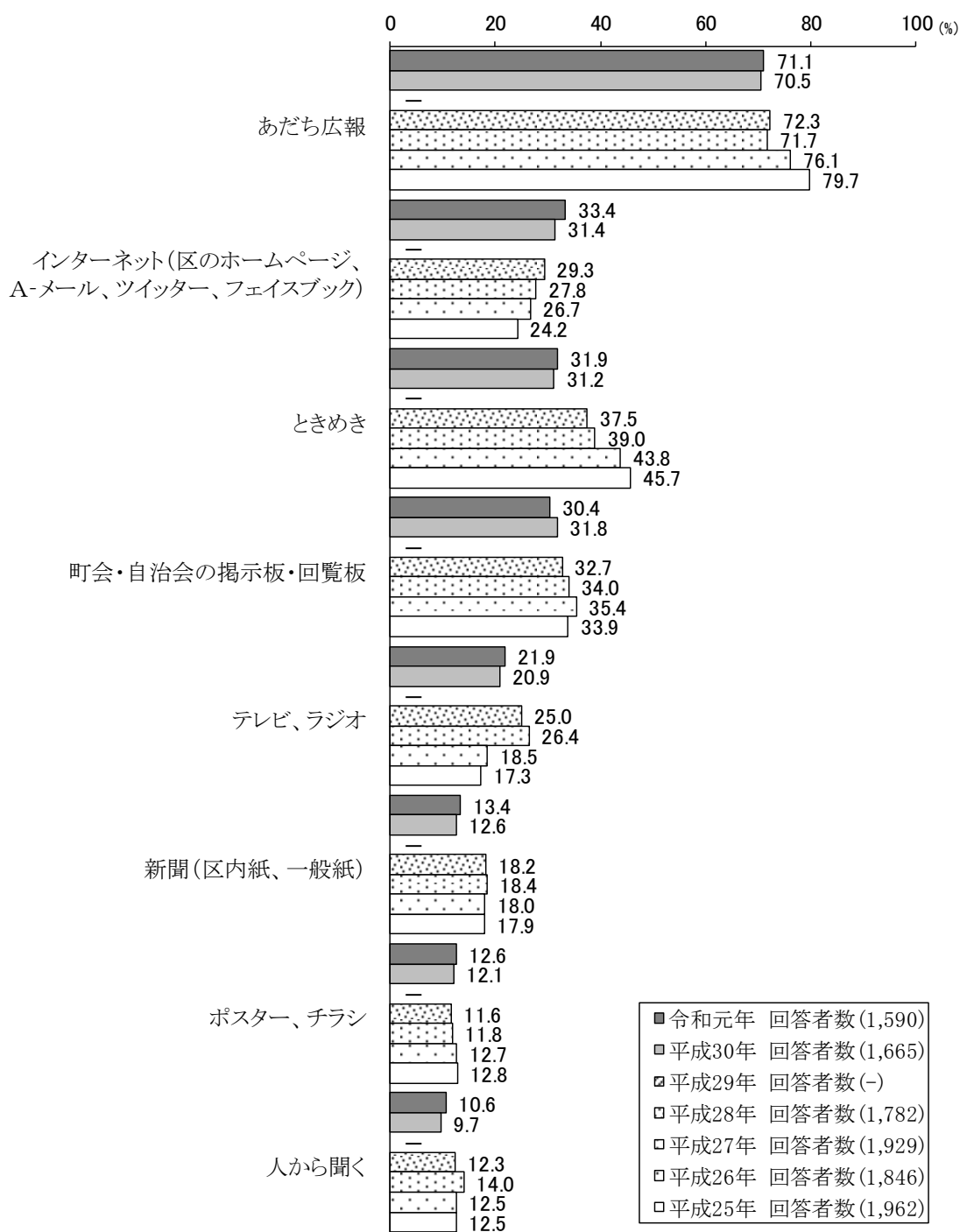
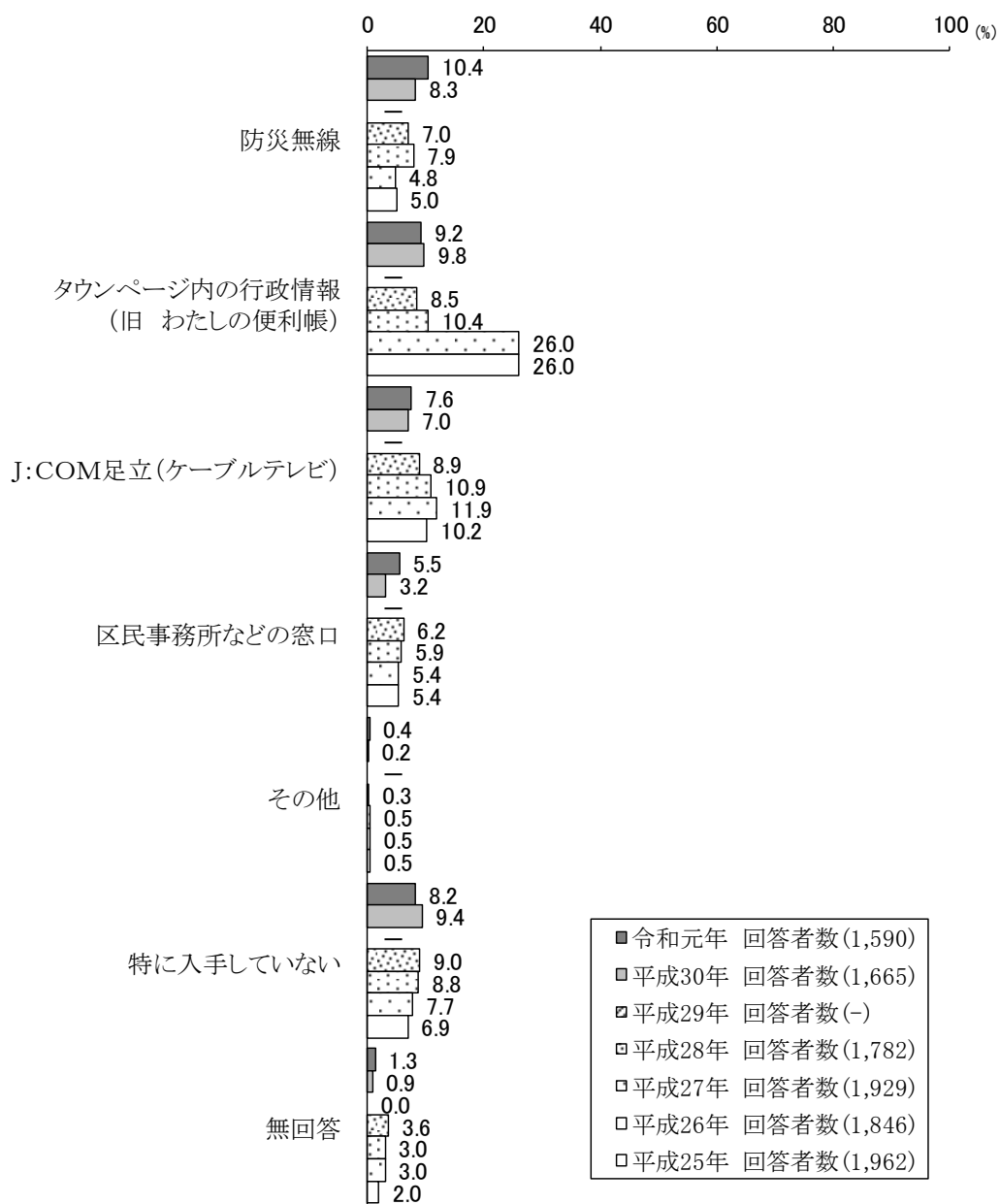


図4-1-1-② 経年比較／区の情報入手手段



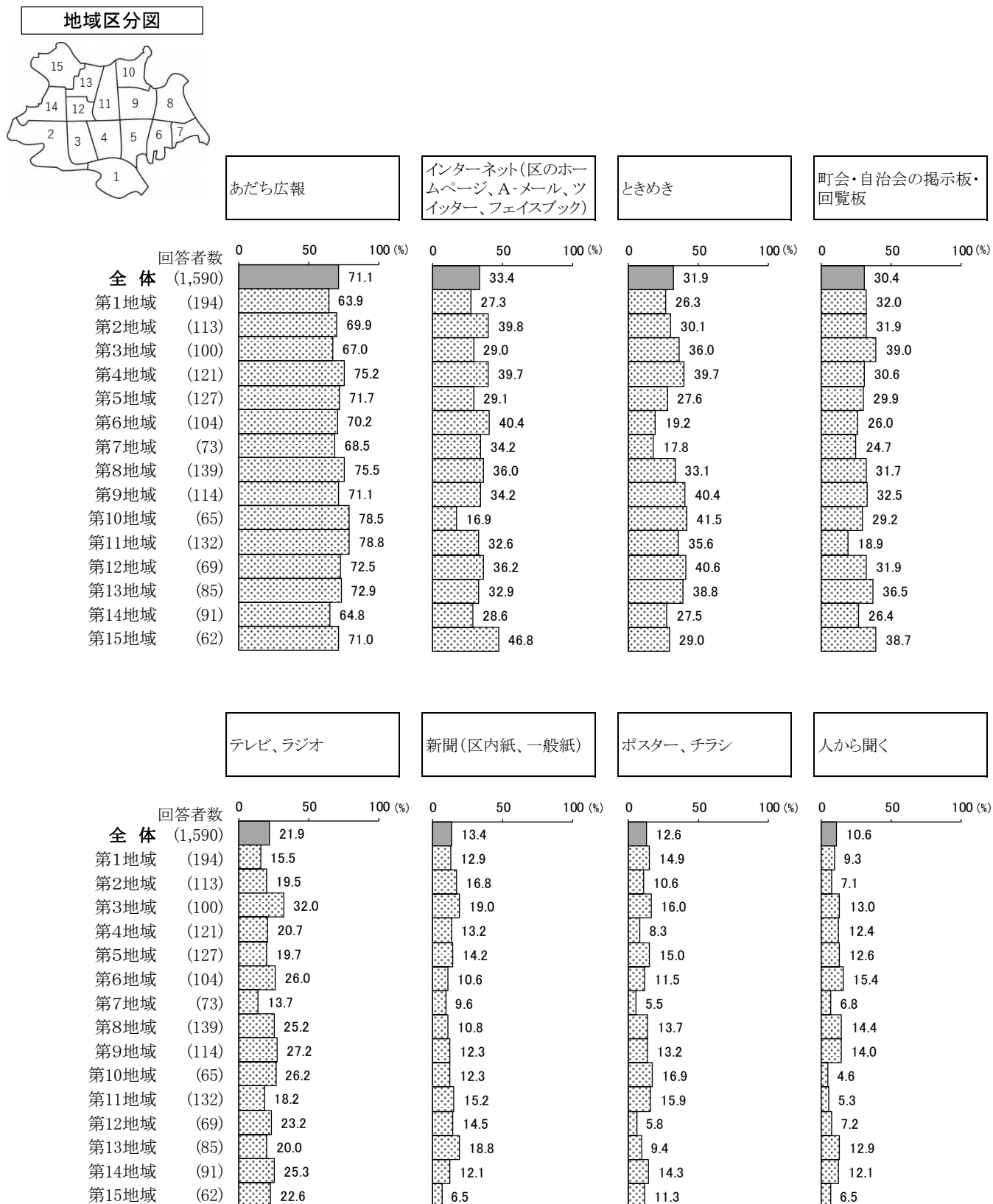
※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

足立区に関する情報の入手媒体としては、「あだち広報」が71.1%で最も高く、以下「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」(33.4%)、「ときめき」(31.9%)「町会・自治会掲示板・回覧板」(30.4%)の順となっている。

経年でみると、「あだち広報」は平成27年調査以降はほぼ横ばいで、今回3位の「ときめき」と4位の「町会・自治会掲示板・回覧板」がともに平成26年以降漸減・横ばい傾向にある中で、「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」は平成25年の24.2%から各年漸増傾向にあり、今回は前回より2.0ポイント増加の33.4%となって、「あだち広報」に次ぐ2位となっている。

地域別でみると、「あだち広報」は第10地域と第11地域でともに8割弱で、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は第15地域で5割弱で、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第3地域と第15地域でともに4割弱で、それぞれ高くなっている。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目



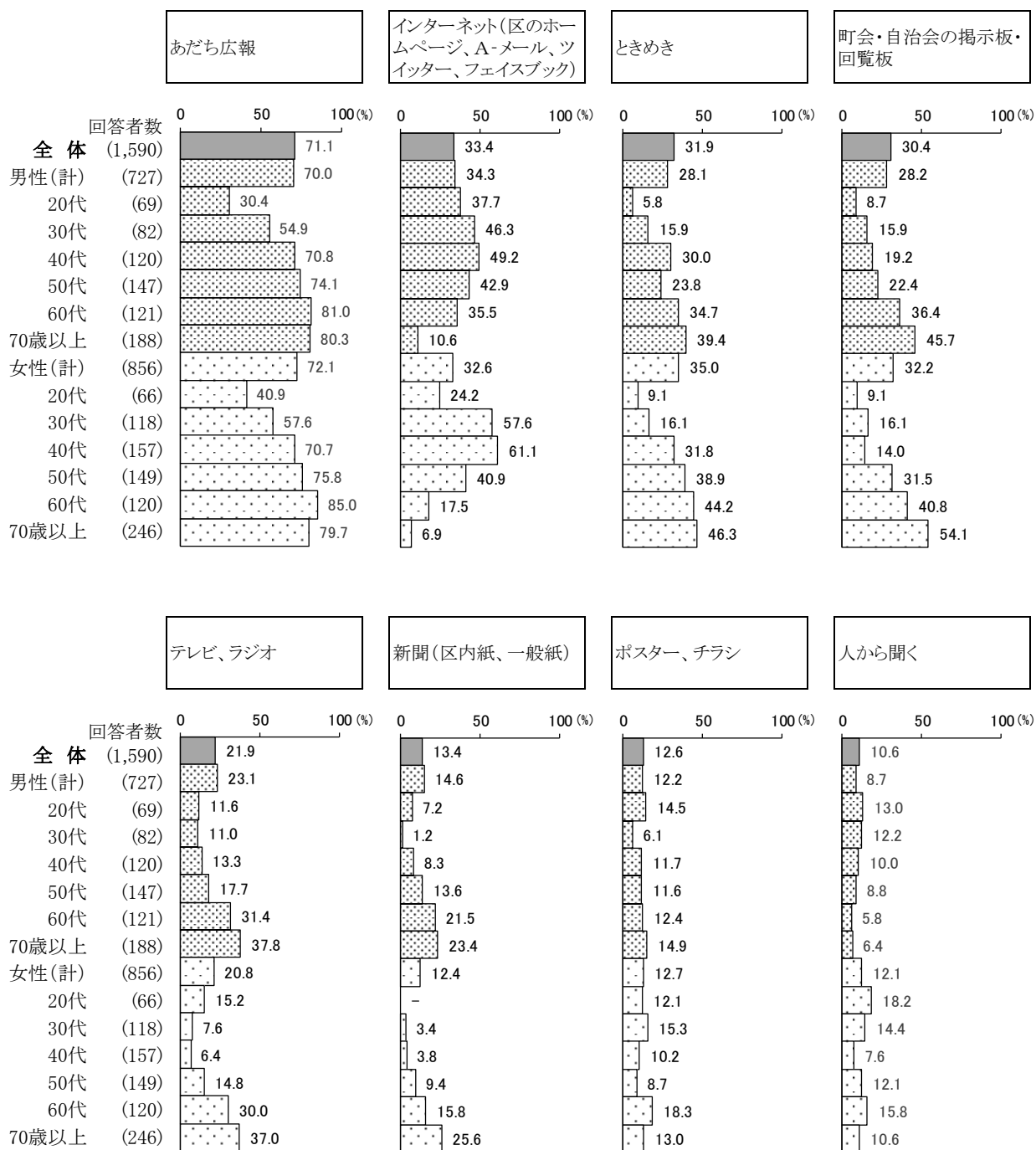
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「ときめき」と「町会・自治体の掲示板・回覧板」で女性の方が5ポイント前後高いのを除くと、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上の両層で「あだち広報」「ときめき」「町会・自治体の掲示板・回覧板」のいずれもが他の年代層より高いが、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は40代の49.2%を筆頭に30代から50代の3年代層とともに4割台と高くなっている。

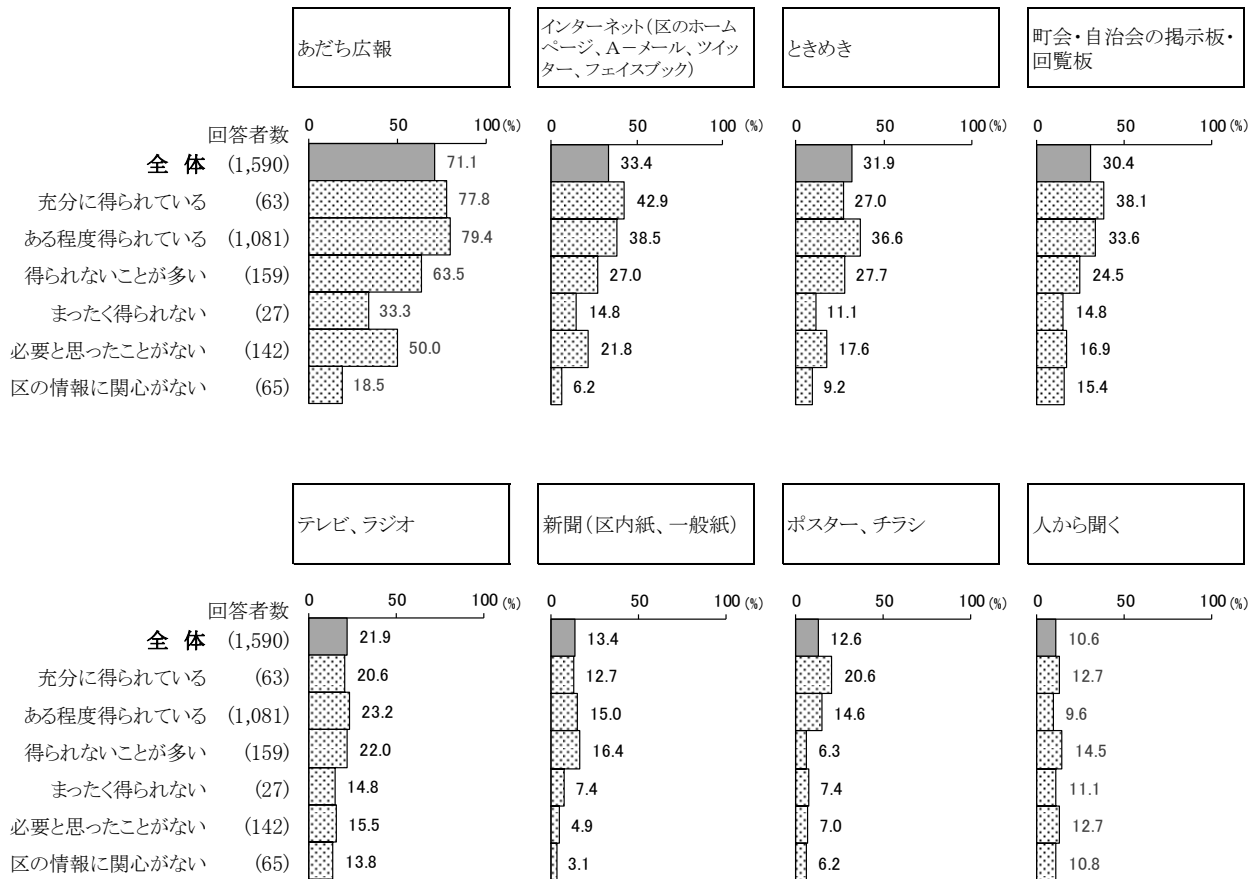
女性の場合、「あだち広報」「ときめき」「町会・自治体の掲示板・回覧板」はそれぞれ加齢とともに高まる傾向を示している。一方、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は30代と40代の両層で6割前後ととくに高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目



必要な時に必要とする区の情報入手状況別にみると、上位の「あだち広報」「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」「ときめき」「町会・自治会の掲示板・回覧板」では、情報が得られている層ほどそれぞれの割合も高まる傾向を示している。

図4-1-4 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 必要とする区の情報

■ “健康や福祉”と“災害や気象”がともに6割前後で上位

問15 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。

図4-2-1-① 経年比較/必要とする区の情報

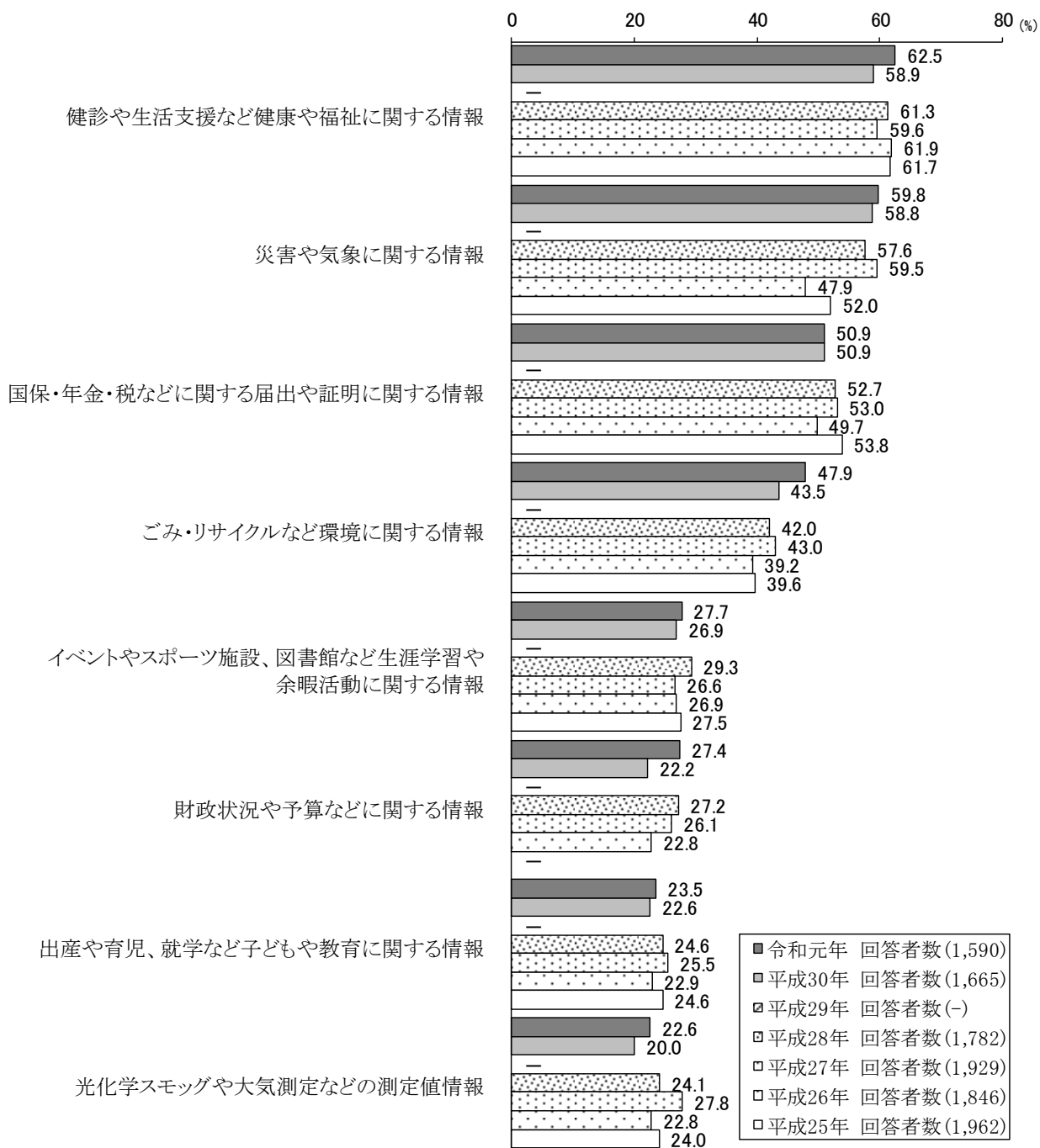
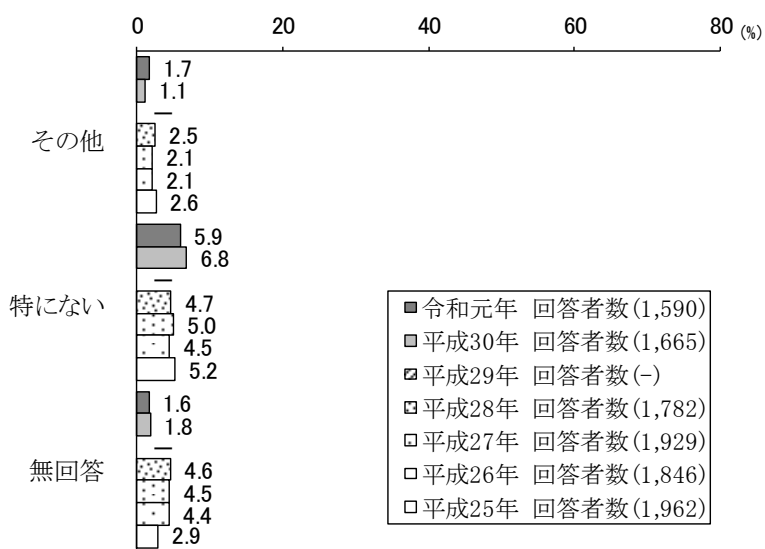


図4-2-1-② 経年比較／必要とする区の情報



※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

※ 「財政状況や予算などに関する情報」は、平成26年度新設。

必要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が62.5%で最も高く、「災害や気象に関する情報」(59.8%)がほぼ6割で続き次点に入る。以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(50.9%)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(47.9%)の順で続いている。

経年でみると、上位項目について、順位、比率に大きな変動はみられないが、第1位の「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」と第4位の「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」の2項目は、前回よりそれぞれ4ポイント前後比率が増加している。

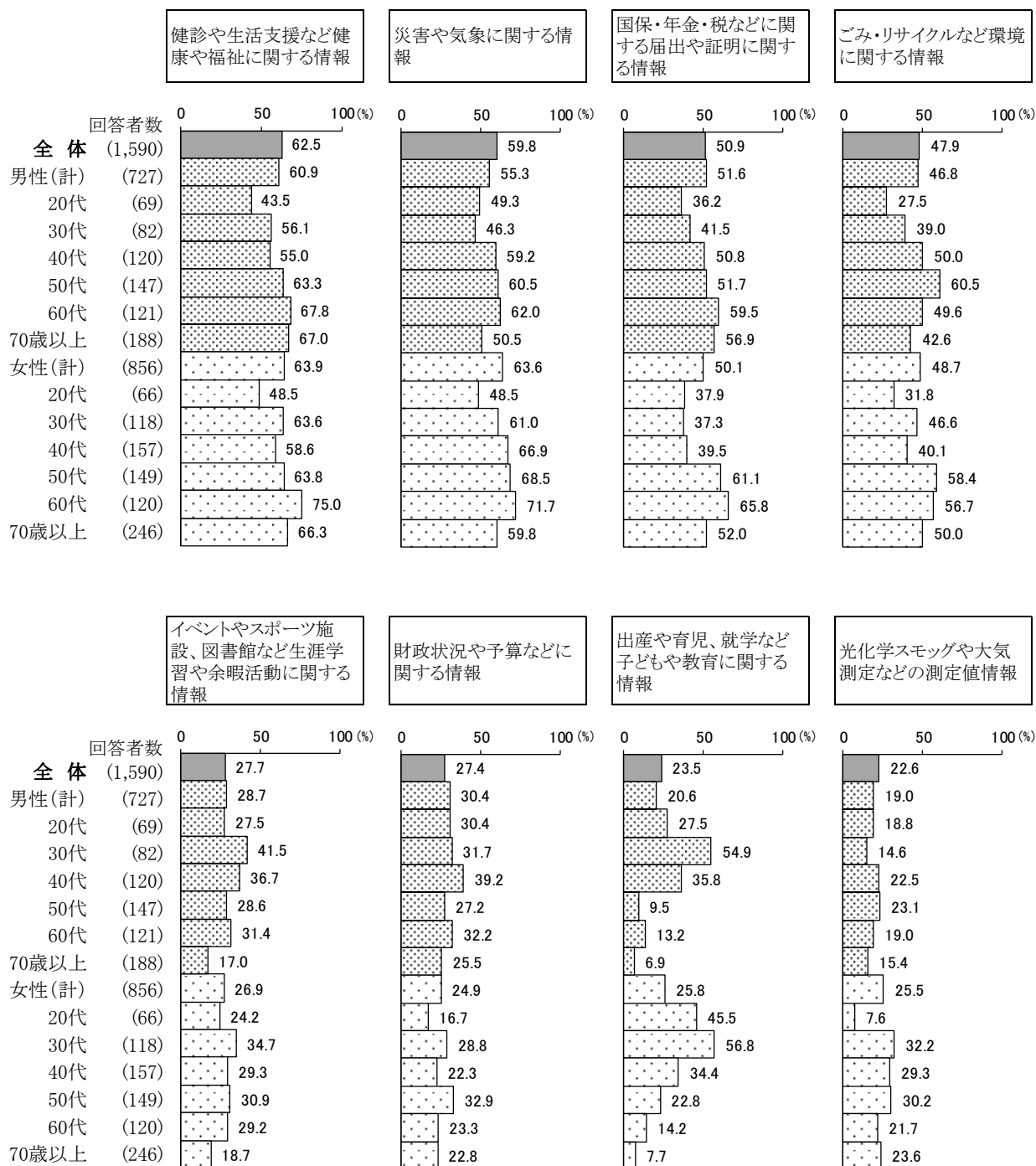
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別で見ると、「災害や気象に関する情報」は男性（55.3%）より女性（63.6%）で高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は60代と70歳以上でともに7割弱と、「災害や気象に関する情報」は40代から60代の3年代層で6割前後と、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」は50代で6割強と、それぞれ他の年代より高くなっている。

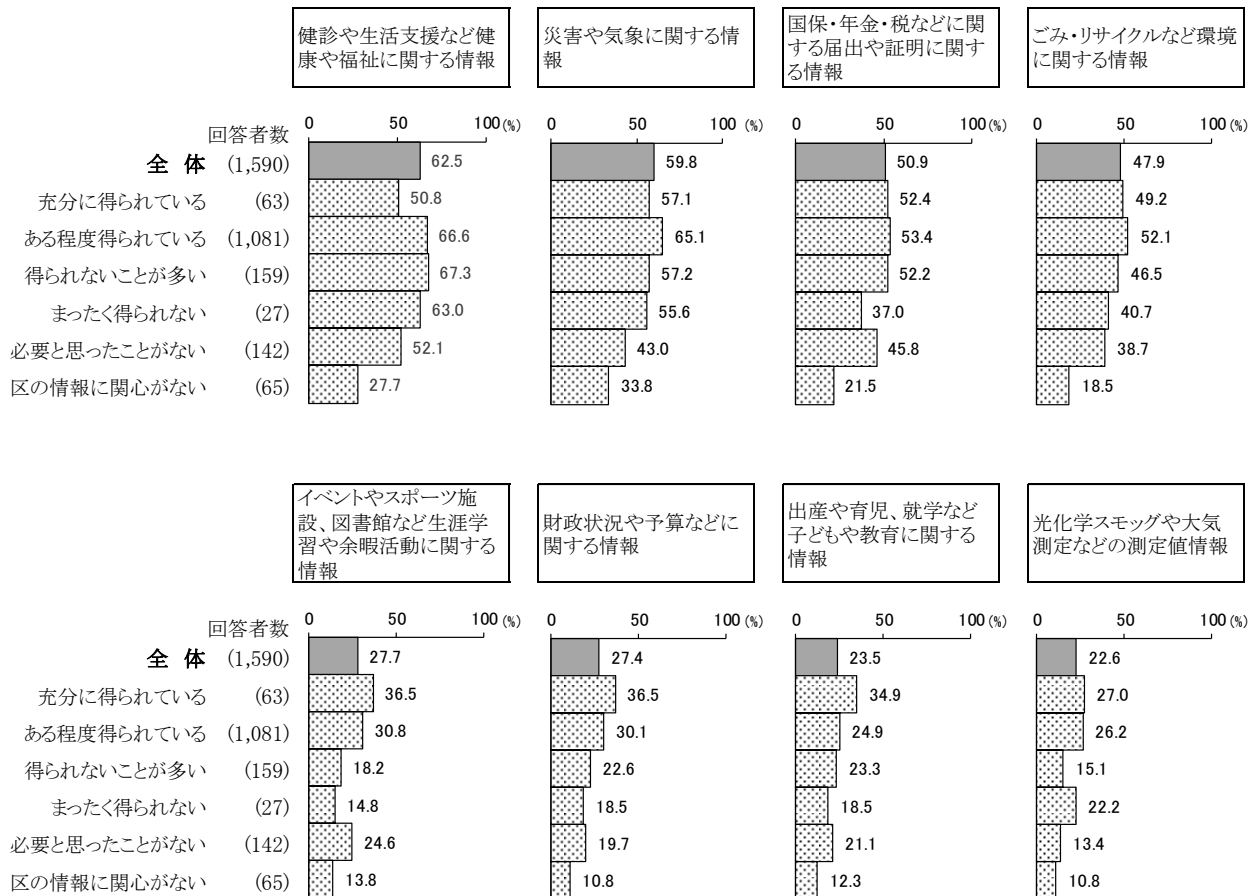
女性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「災害や気象に関する情報」「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」の上位3項目はいずれも60代が最も高くなっている。なお、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は男女ともに30代で5割台半ばから6割弱に達して、ともに他の年代に比べ高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／必要とする区の情報／上位8項目



必要な時に必要とする区の情報入手状況別でみると、各項目に亘って、〈区の情報に関心がない〉という層で比率が低くなっているのを除くと、〈十分に得られている〉から〈まったく得られない〉の4層で大きな比率の差はみられず、区の情報入手程度による情報の必要性に大きな違いはみられない結果となっている。

図4-2-3 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／必要とする区の情報／上位8項目

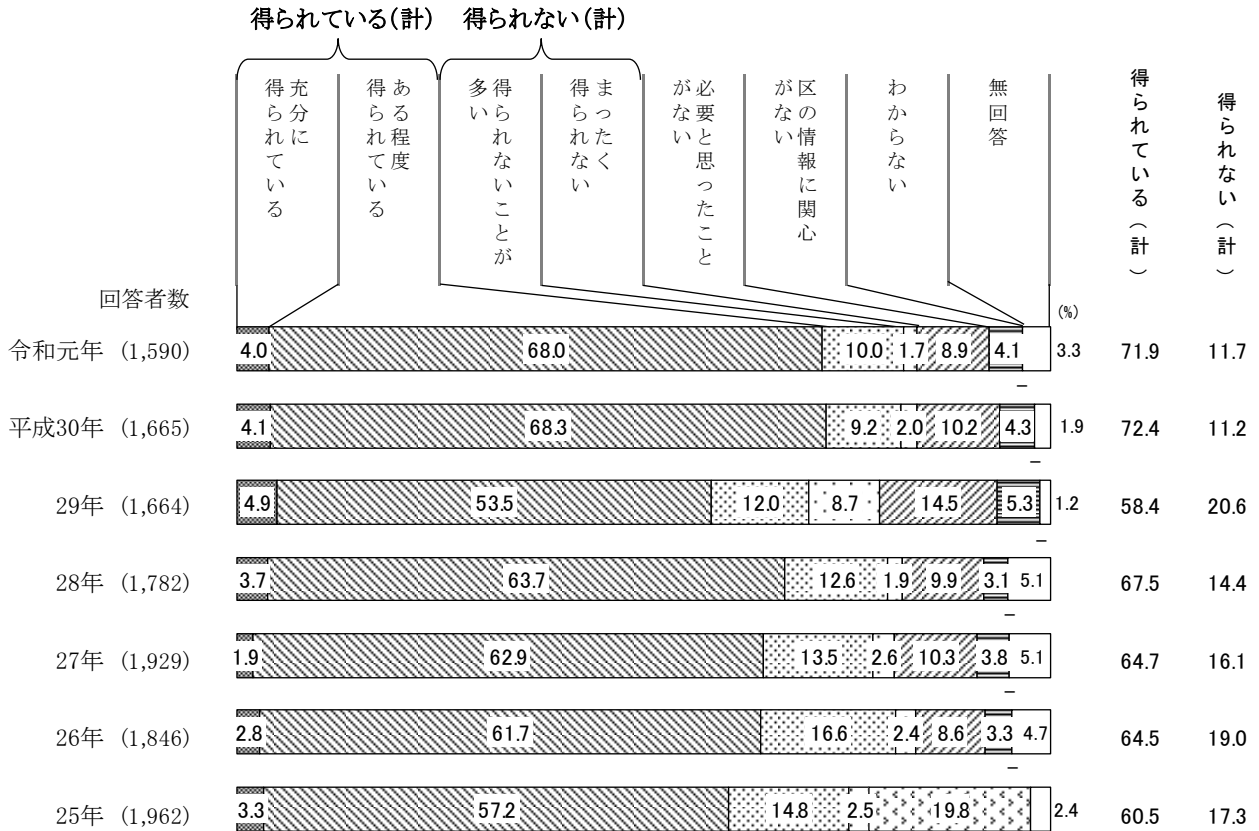


(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

■ 必要なときに【得られている】は、前回同様7割強

問16 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



- ※ 「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、平成26年度新設。
- ※ 「わからない」は、平成26年度から削除。
- ※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

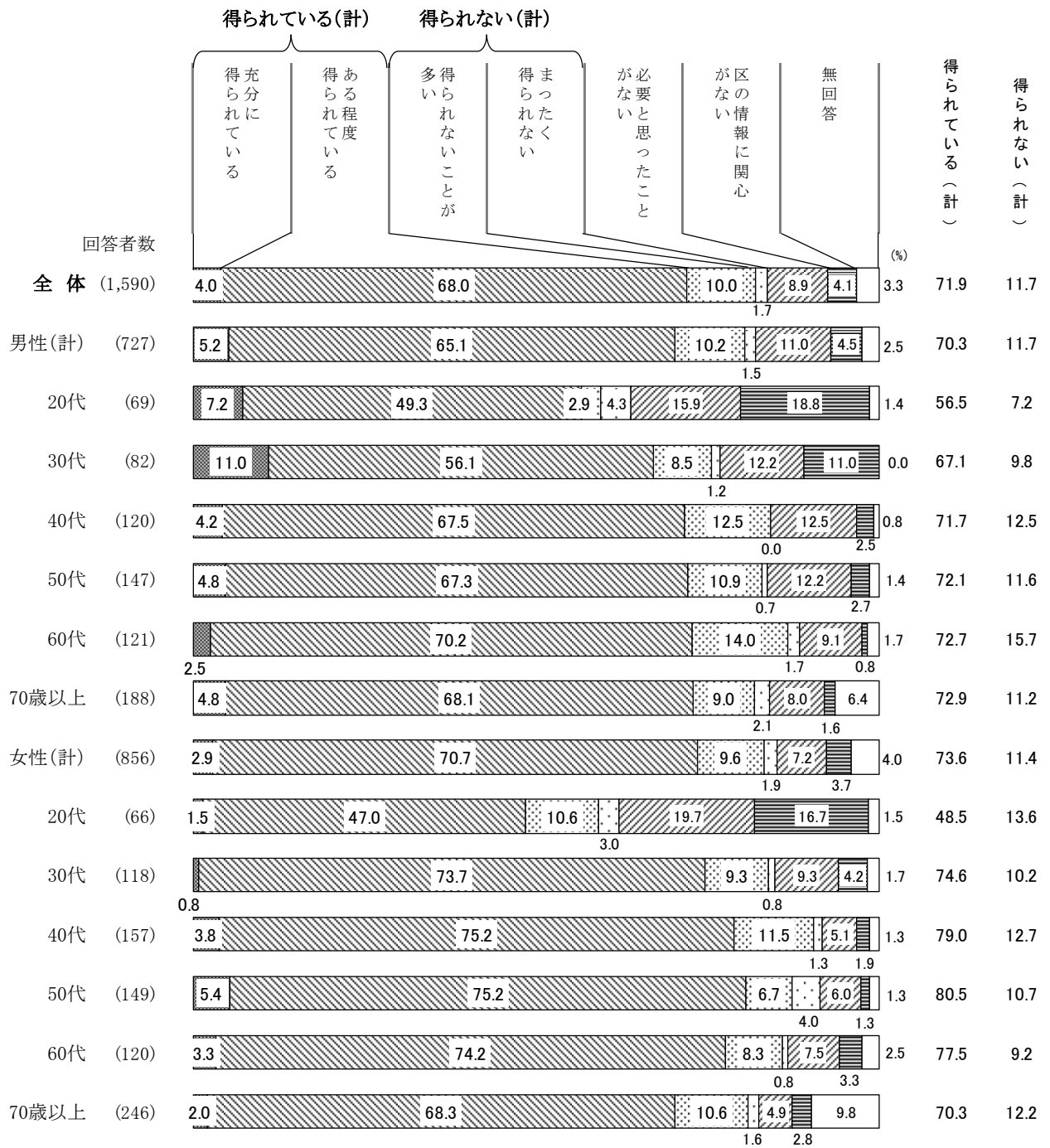
必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が4.0%で、これに「ある程度得られている」の68.0%を合わせた【得られている】は71.9%となっている。一方、「得られないことが多い」は10.0%、「まったく得られない」は1.7%となっている。

経年でみると、平成29年を除き平成25年から前回の平成30年まで漸増傾向を続けて、前回7割を超えた【得られている】は、今回71.9%でほぼ前回（72.4%）と同レベルとなっている。

性別でみると、【得られている】は男性70.3%、女性73.6%となっている。

性・年代別でみると、【得られている】は、男性では40代以上の各年代で7割強で並んで高めとなっており、女性では40代から60代の3年代層でそれぞれ8割前後と他の年代より高くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報の入手状況

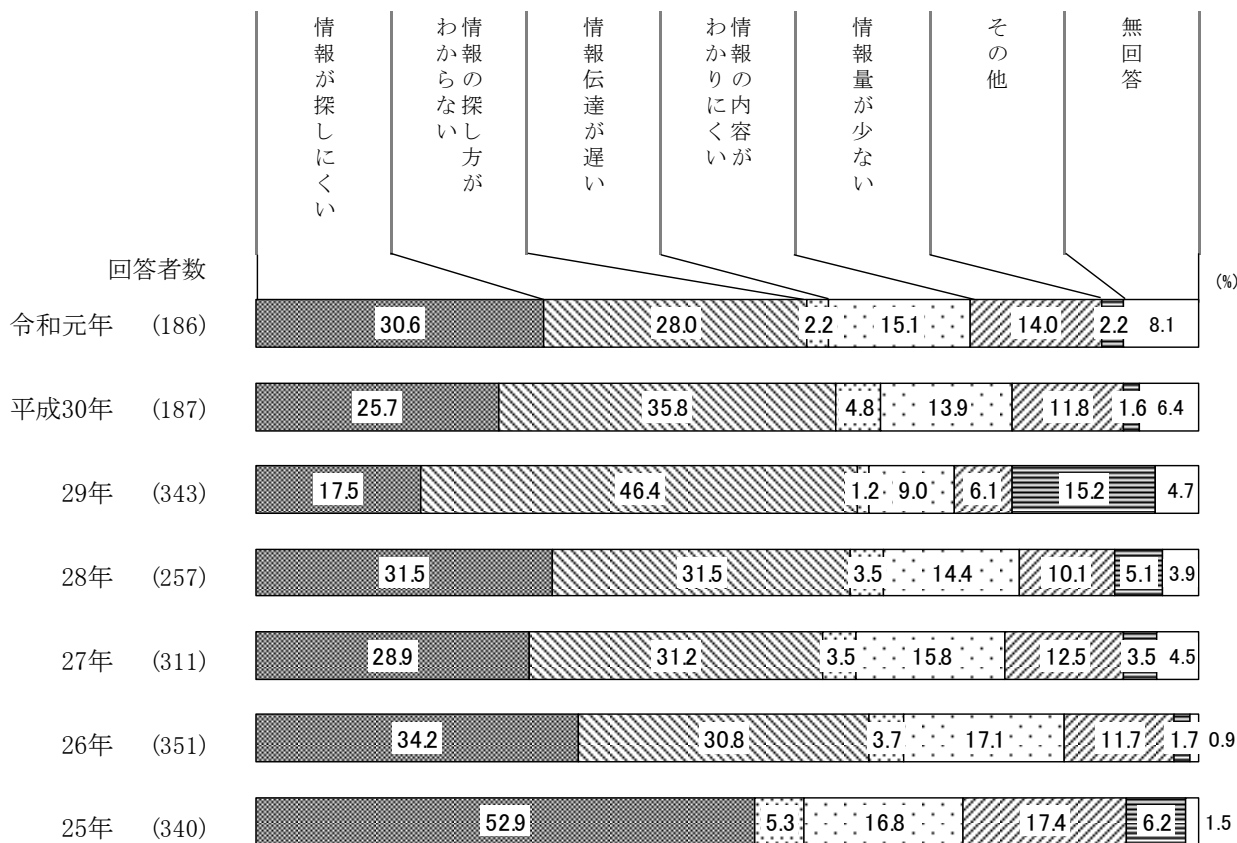


(4) 区の情報 that 得られない理由

■ “情報が探しにくい” が、前回より増えて3割強で最多に

問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問16-1 主にどのような理由からですか (○は1つだけ)。

図4-4-1 経年比較/区の情報 that 得られない理由



※ 「情報の探し方がわからない」は、平成26年度新設。

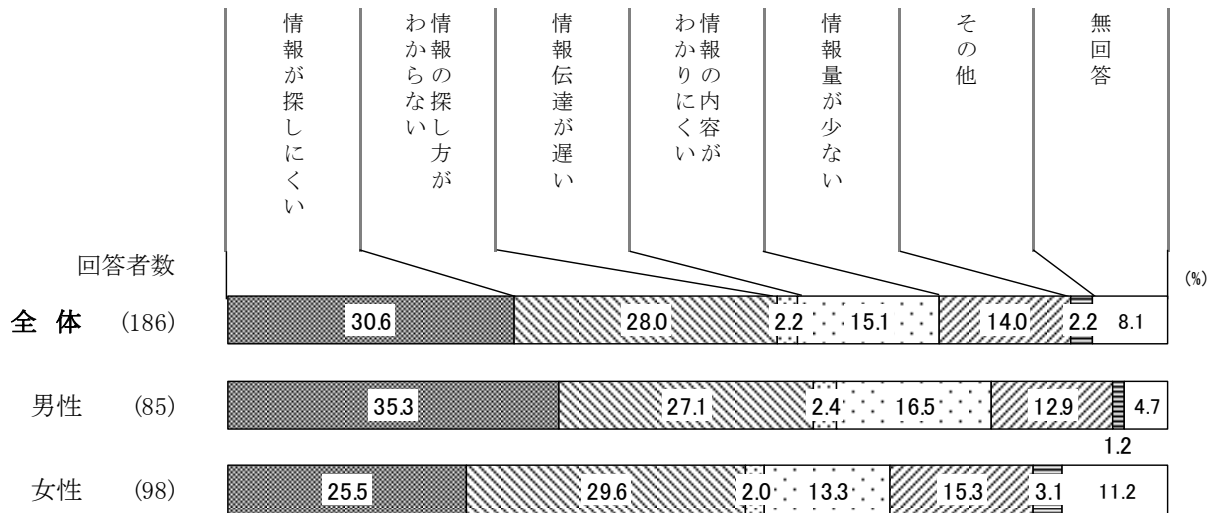
※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報 of 入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

区の情報 that 【得られない】という人に、その理由を聴いたところ、「情報が探しにくい」が30.6%と最も多く、次いで「情報の探し方がわからない」が28.0%となっている。

経年でみて、前回の平成30年と今回の令和元年の結果を比較すると、平成30年には3割台半ばを占めていた「情報の探し方がわからない」は減少して今回は3割弱となり、一方、平成30年には2割台半ばだった「情報が探しにくい」が増加して今回は3割台に達しており、今回の調査ではこの両項目の割合が3割前後で拮抗し、平成27年や平成28年に類似した分布結果となっている。

性別で見ると、「情報が探しにくい」は男性35.3%、女性25.5%と男性の方が9.8ポイント高くなっているが、「情報の探し方がわからない」には大きな男女差はみられない。

図4-4-2 性別／区の情報得不到理由



(5) 区の情報 that 得られない理由の詳細

問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問16-2 問16-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報 (47名の回答)	件数
読みづらい、わかりづらいから	15
内容が少ない、薄いから	10
関心がない、見る機会が少ないから	8
発行回数が少ない、発行日等がわからないから	6
その他	10

区ホームページ (57名の回答)	件数
探しにくい、わかりづらいから	27
パソコンを使わない、使えないから	9
見ない、あまり見ないから	8
情報が不足しているから	6
インターネットを使用できる環境がないから、インターネットは使わない	3
その他	4

その他 (16名の回答)	件数
情報をみつけられない、入手方法がわからないから	5
放送が聞こえないから	4
インターネットで探せない、探しにくいから	3
その他	4

5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
 - (7) 自身の健康状態について
 - (8) がん検診制度の感想
 - (9) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-

5 健康

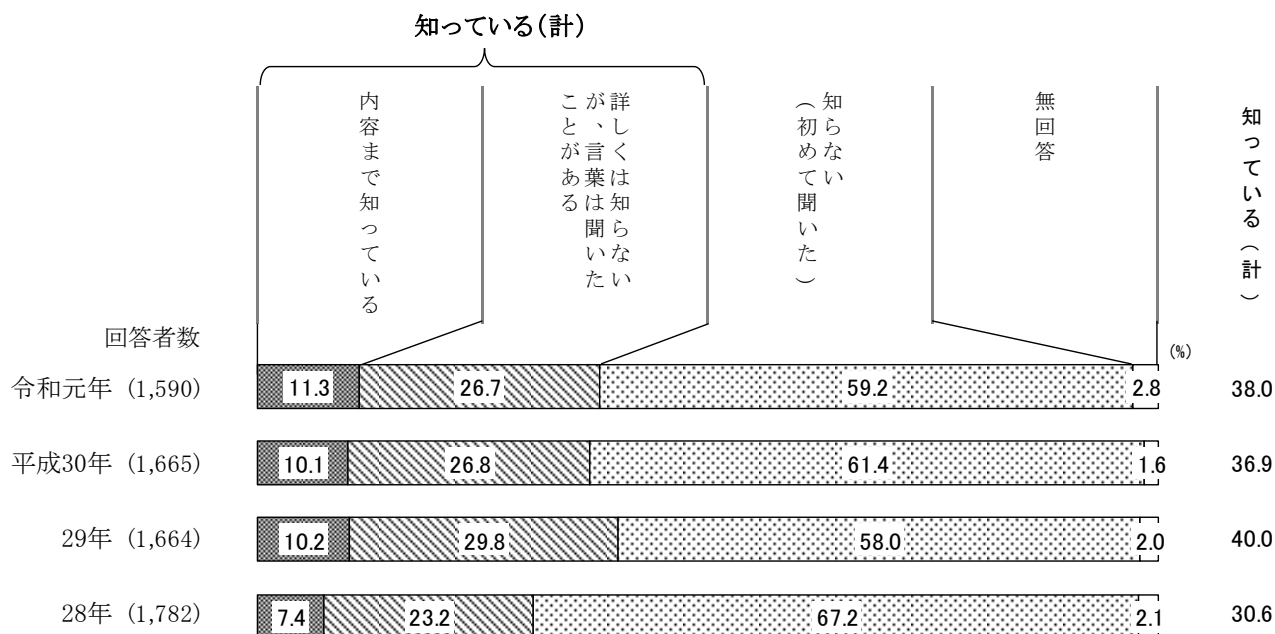
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

■ 【知っている】は4割弱

問17 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況



『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は11.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.7%)を合わせた【知っている】は38.0%となっている。一方、「知らない」は59.2%となっている。

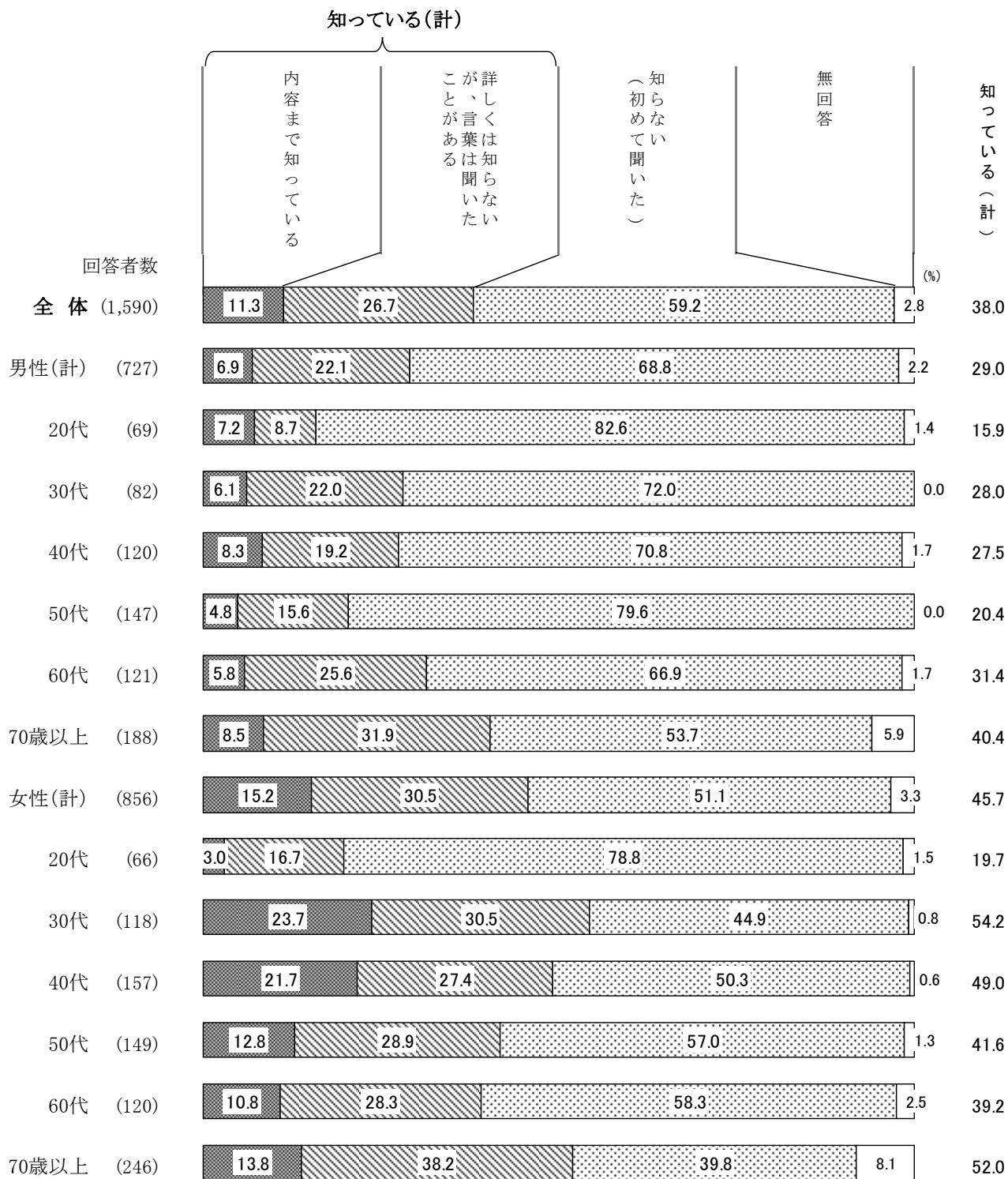
経年でみると、【知っている】は、平成30年の36.9%から今回38.0%へと1.1ポイント増加しているが、これまで最高の平成29年の40.0%には届いていない。

第3章 調査結果の分析〈健康〉

性別で見ると、【知っている】は女性で45.7%と、男性（29.0%）を大きく上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、【知っている】は70歳以上で4割を超えて高く、女性では、30代と70歳以上で【知っている】が5割を超えて高くなっている。一方、20代での【知っている】は男女ともに2割を下回って低くなっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」と「足の壊疽(えそ)」がともに6割台半ばで上位

問18 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか(○はあてはまるものすべて)。

図5-2-1-① 経年比較/糖尿病の進行による病気や障がいの認識

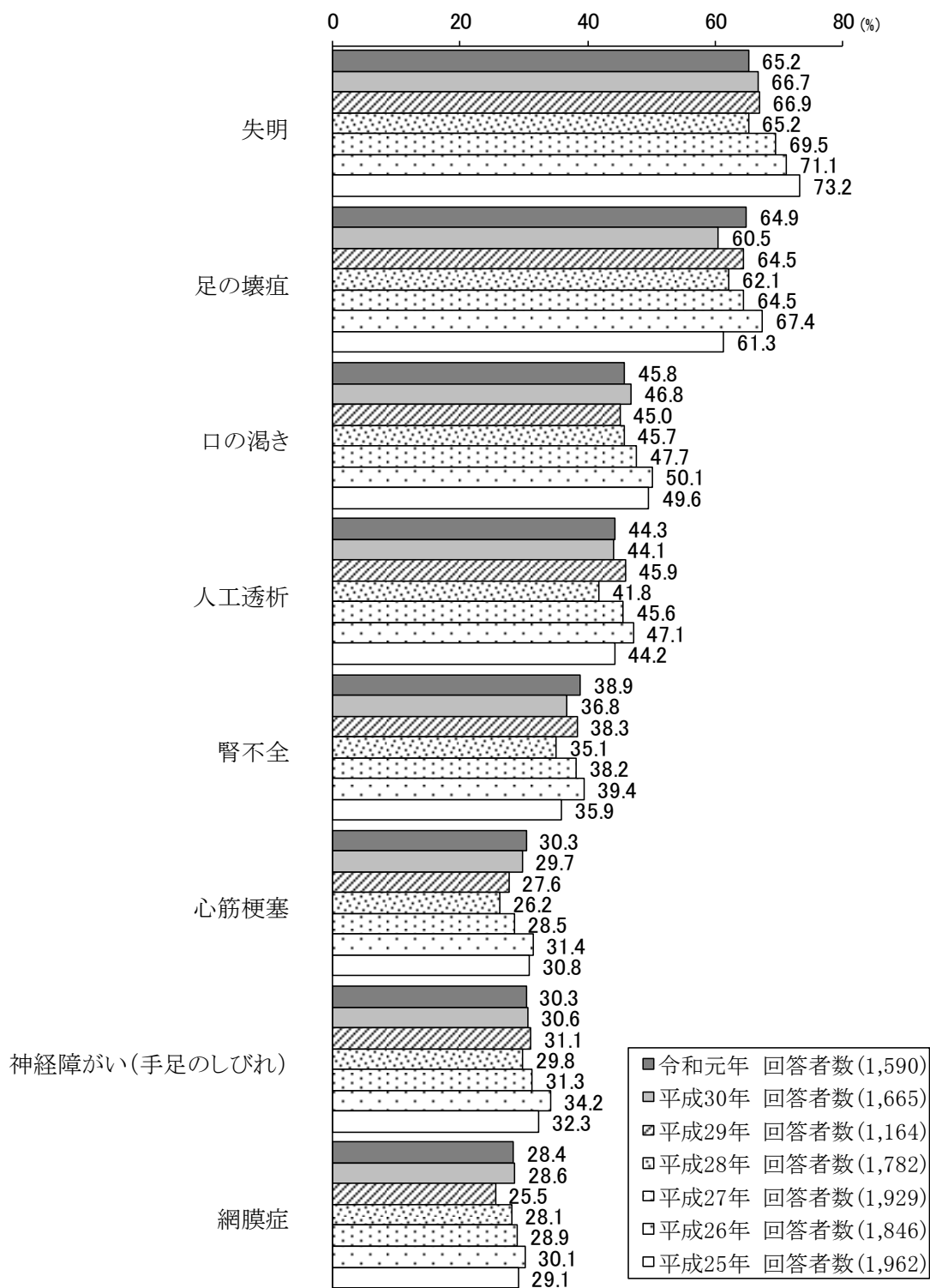
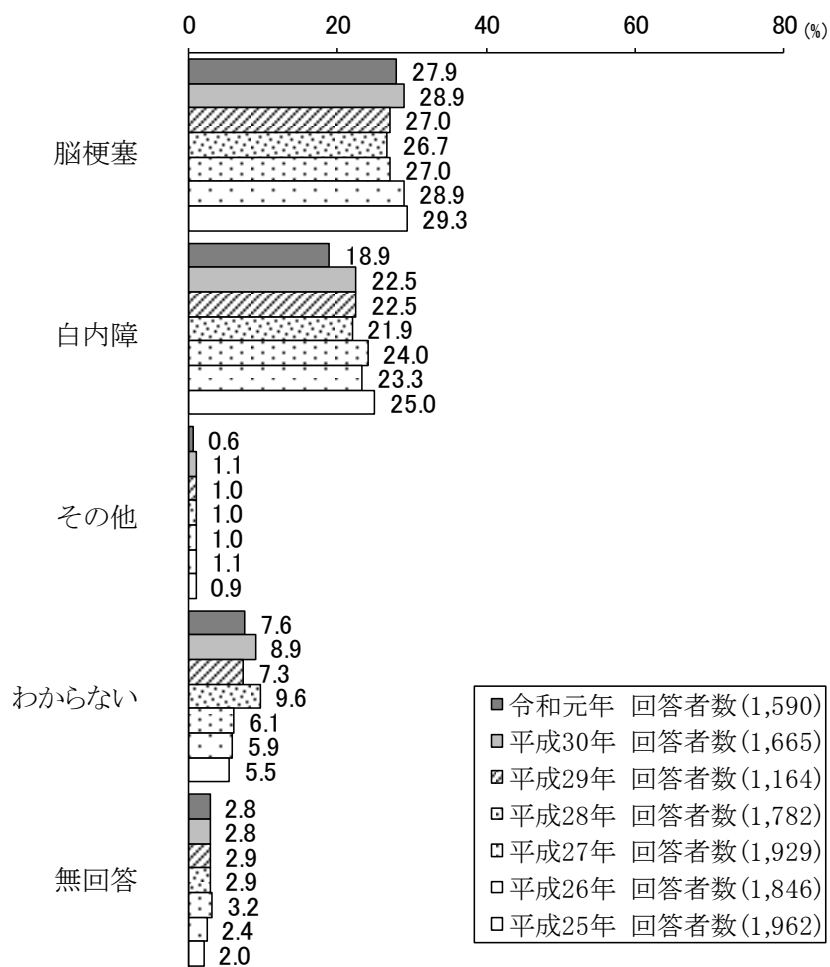


図5-2-1-② 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識



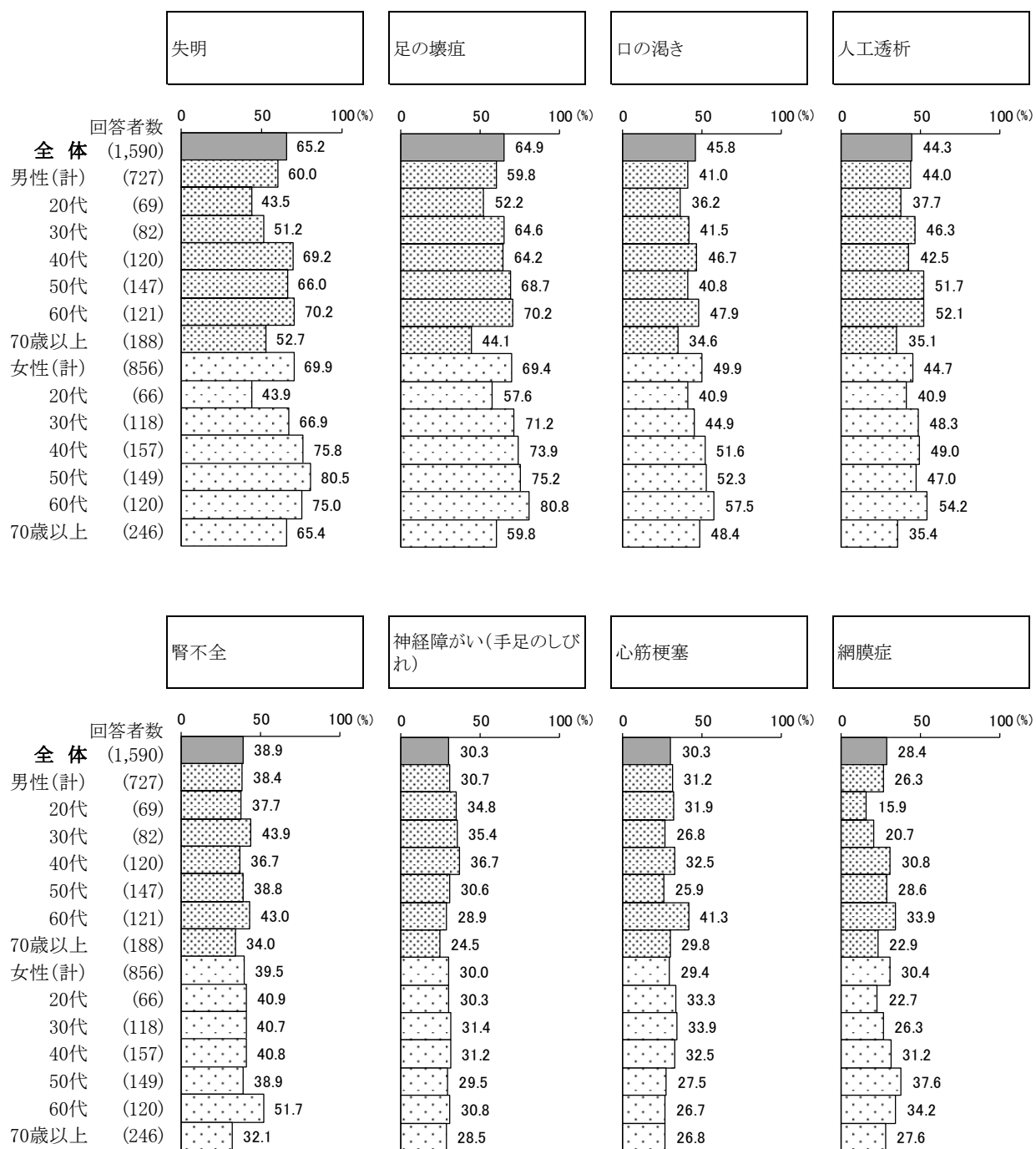
糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が65.2%で最も高いが、僅差で「足の壊疽（えそ）」（64.9%）が続き、以下、「口の渇き」（45.8%）、「人工透析」（44.3%）、「腎不全」（38.9%）の順となっている。

経年でみると、数値に多少の増減はあるものの、上位項目の順位に前回からの変動はみられない。

性別でみると、上位3項目の「失明」、「足の壊疽（えそ）」、「口の渇き」はいずれも男性より女性の方が7～10ポイント程度上回っており、性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、「失明」、「足の壊疽（えそ）」、「口の渇き」などの上位項目は、男女ともに、40代～60代の3年代層で他の年代に比べて高くなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



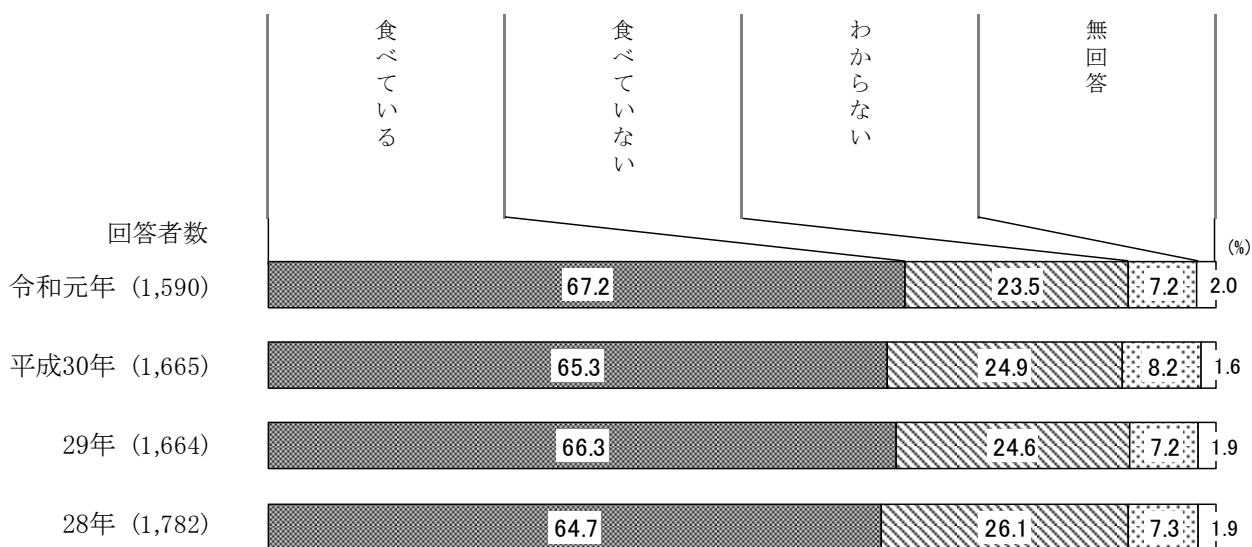
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

■ 「食べている」が前回より微増して7割弱に

問19 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

図5-3-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況



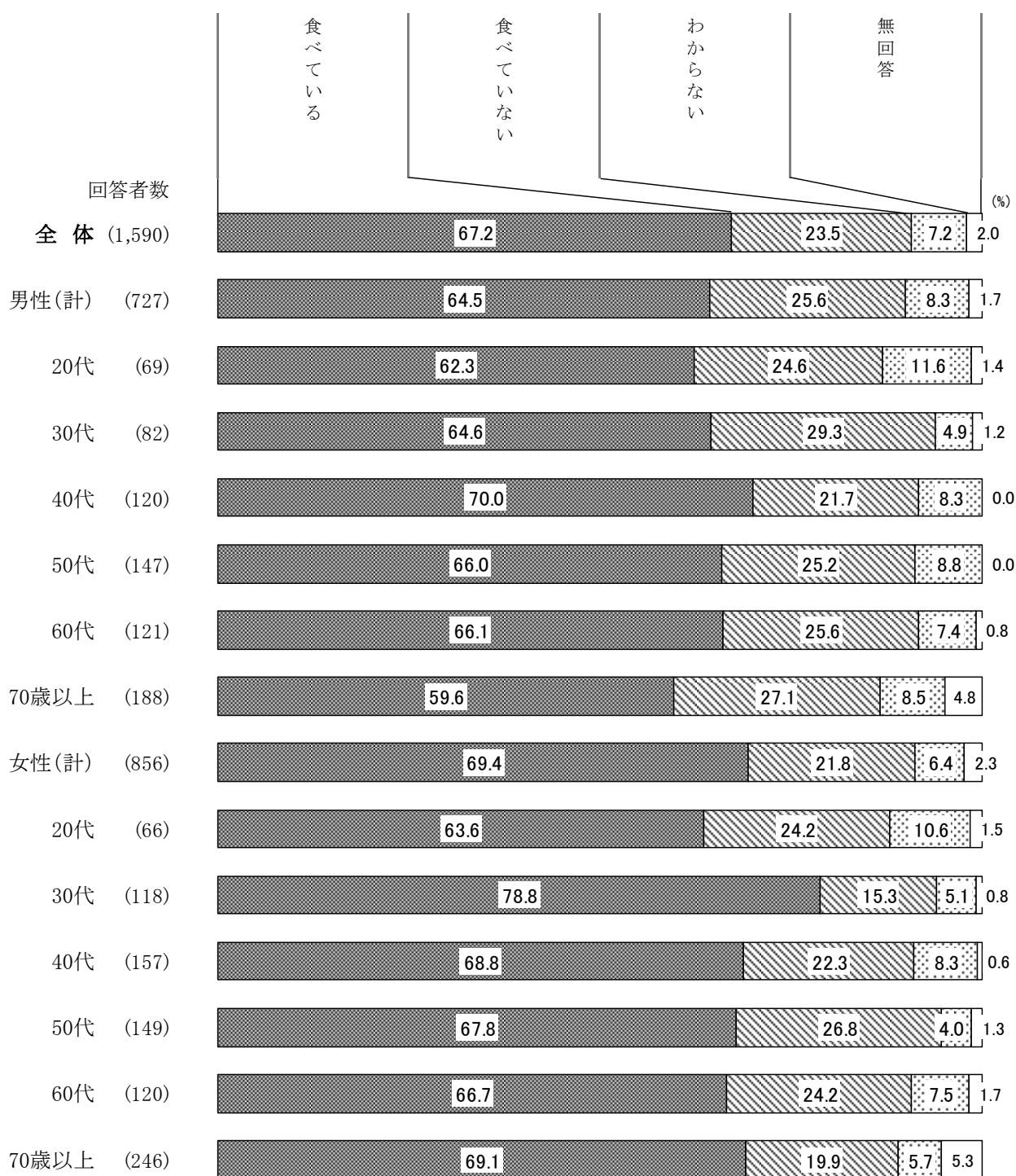
野菜から「食べている」は67.2%を占めている。一方、「食べていない」は23.5%となっている。

経年でみると、いずれの選択肢も比率に大きな変化はみられないが、「食べている」は前回より微増しており、逆に「食べていない」は前回より僅かに減少している。

性別でみると、女性では「食べている」が69.4%と、男性（64.5%）を上回っている。

性・年代別でみると、「食べている」は、男性では40代で70.0%と最も高く、女性では30代で78.8%と8割弱を占めて最も高くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



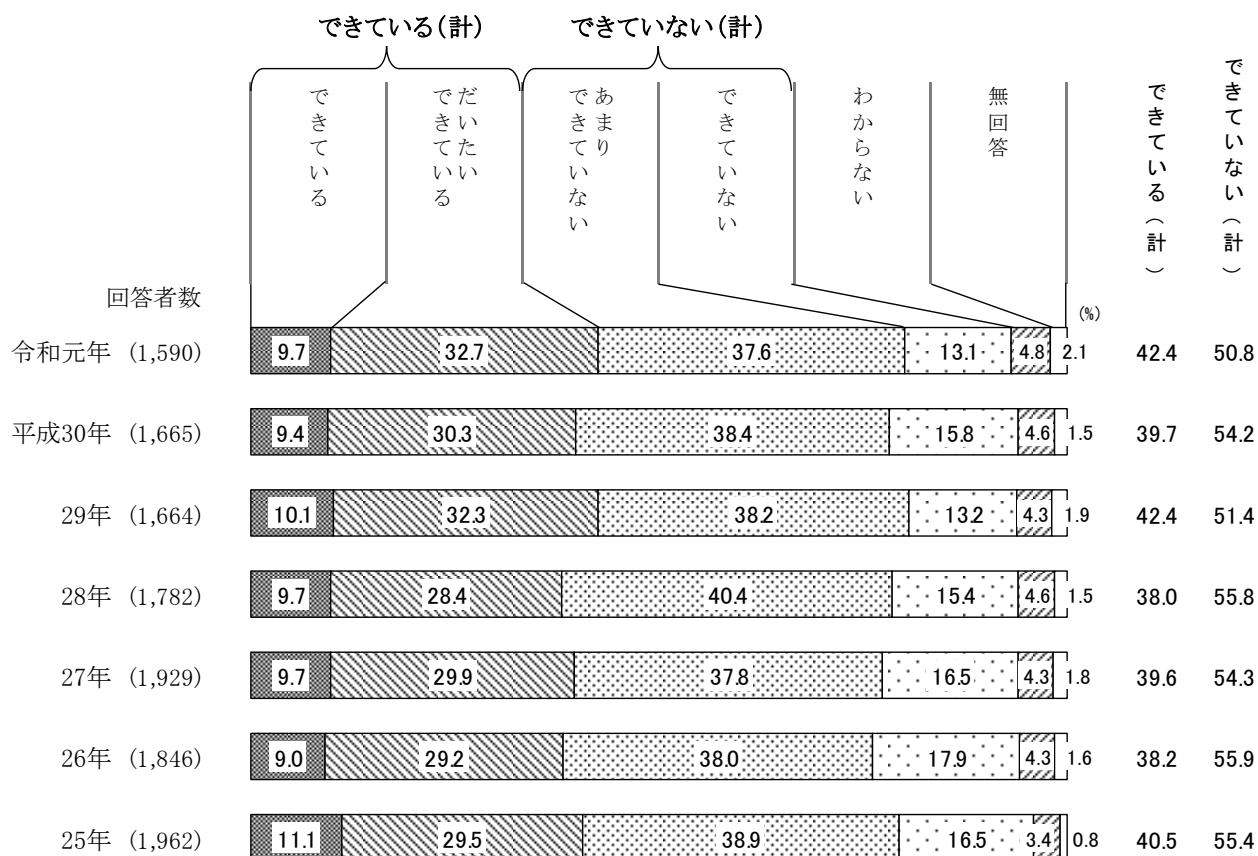
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できている】人は4割強で、【できていない】人が5割強

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取

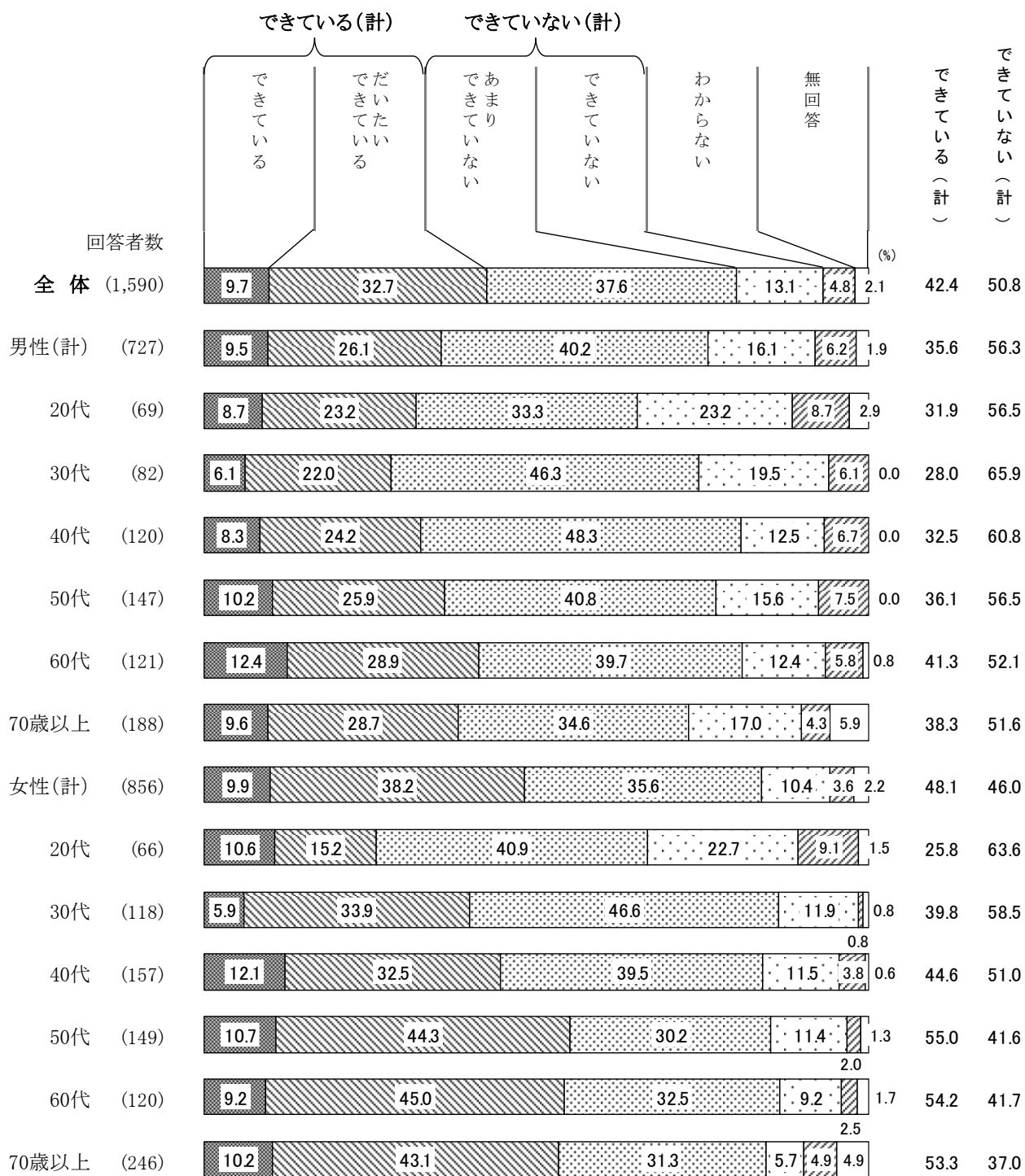


毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が9.7%で、これに「だいたいできている」の32.7%を合わせた【できている】は42.4%となっている。一方、「あまりできていない」と「できていない」(13.1%)を合わせた【できていない】は50.8%となっている。

経年でみると、回答分布に大きな変化はみられないが、【できている】は、平成30年にやや減少したものの、今回は42.4%と前回より2.7ポイント増加し、逆に【できていない】は今回50.8%と前回より3.4ポイント減少して、平成25年以降の7年間の中で最も低くなっている。

性別で見ると、【できている】は、女性が48.1%と男性（35.6%）を大きく上回っている。
 性・年代別で見ると、男性では、60代で【できている】が4割強と高くなっている。
 女性では、50代、60代、70歳以上の3年代増で【できている】がそれぞれ5割強から5割台半ばを占めて、40代以下の各年代層より高くなっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 体調や習慣

■ 〈身近に安心して受診できる医療機関あり〉という人は6割台半ば

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください

(○はそれぞれ1つずつ)。

図5-5-1-① 経年比較/体調や習慣

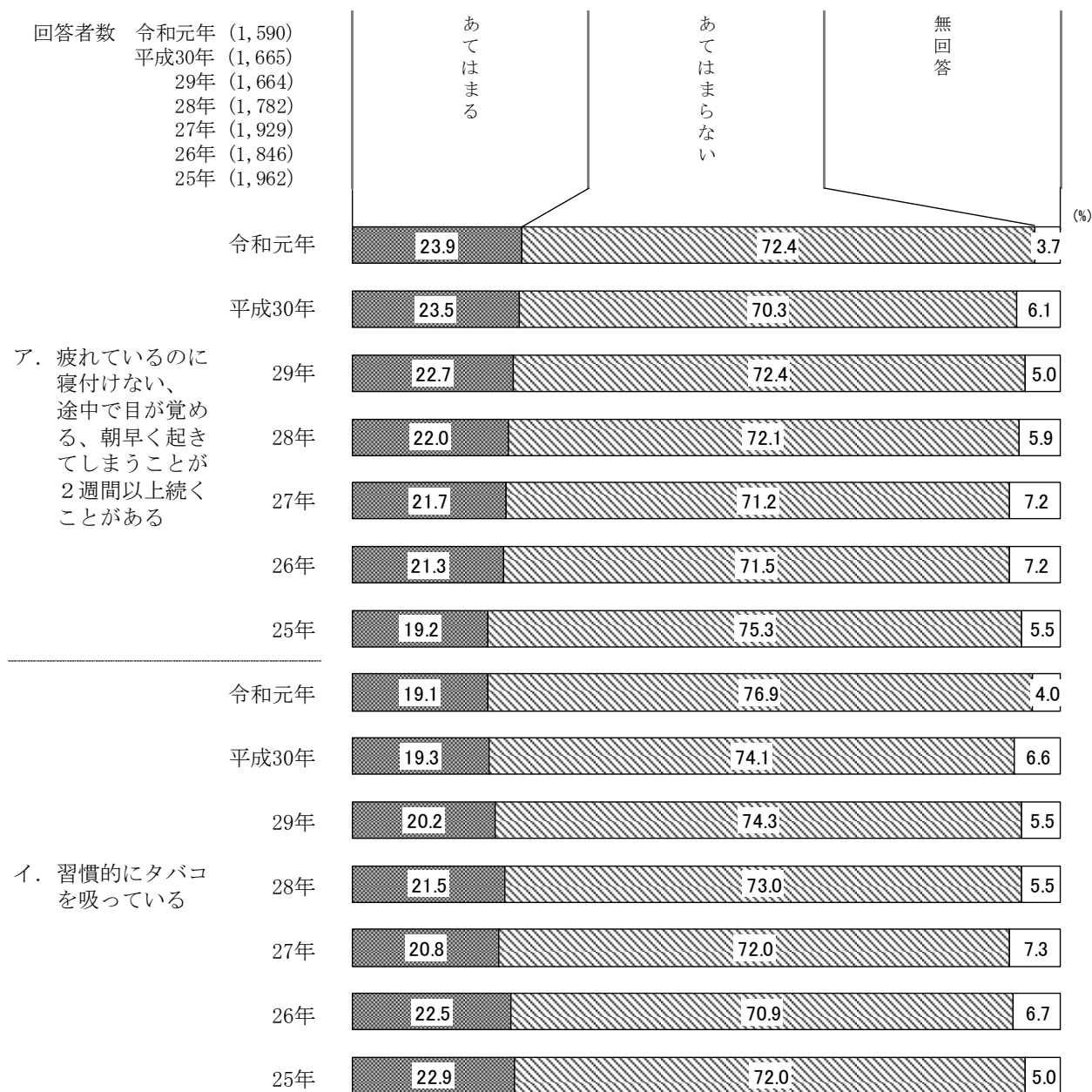
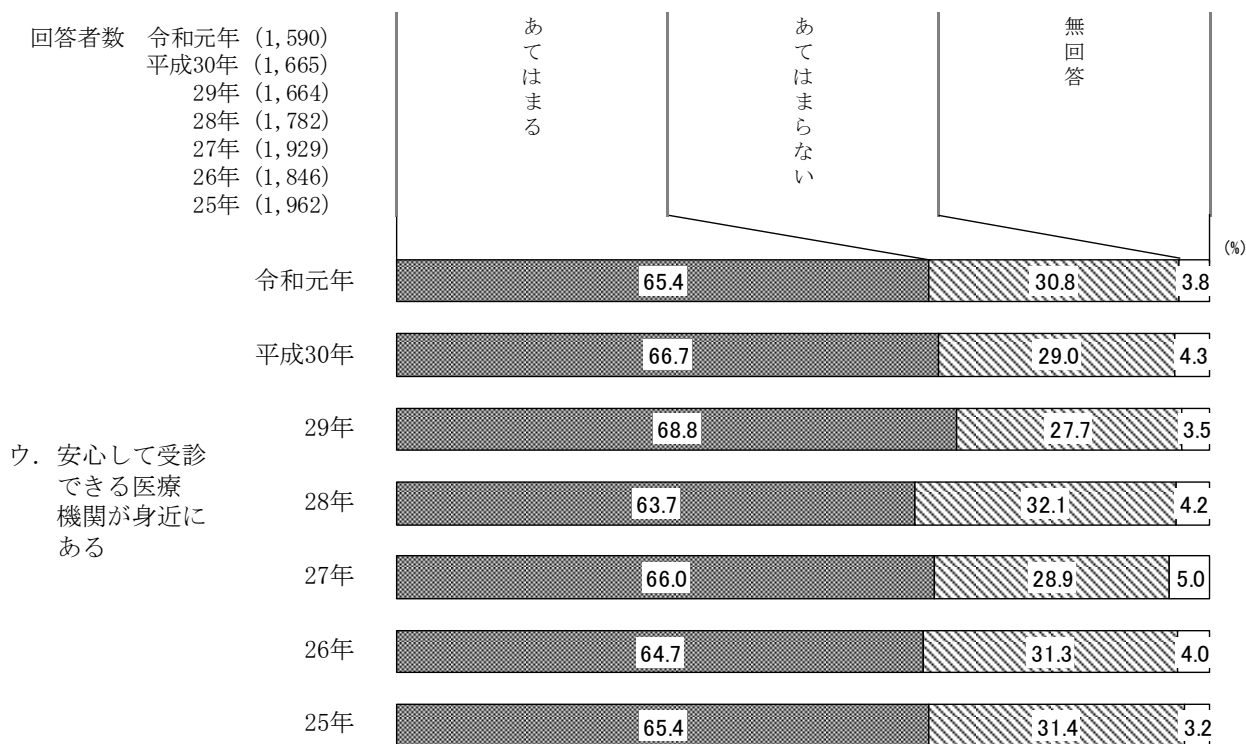


図5-5-1-② 経年比較／体調や習慣



体調や習慣に関する3項目について、「あてはまる」の割合をみると、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉(65.4%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉と〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」がそれぞれ23.9%、19.1%となっており、ともに「あてはまらない」が7割台を占めて多くなっている。

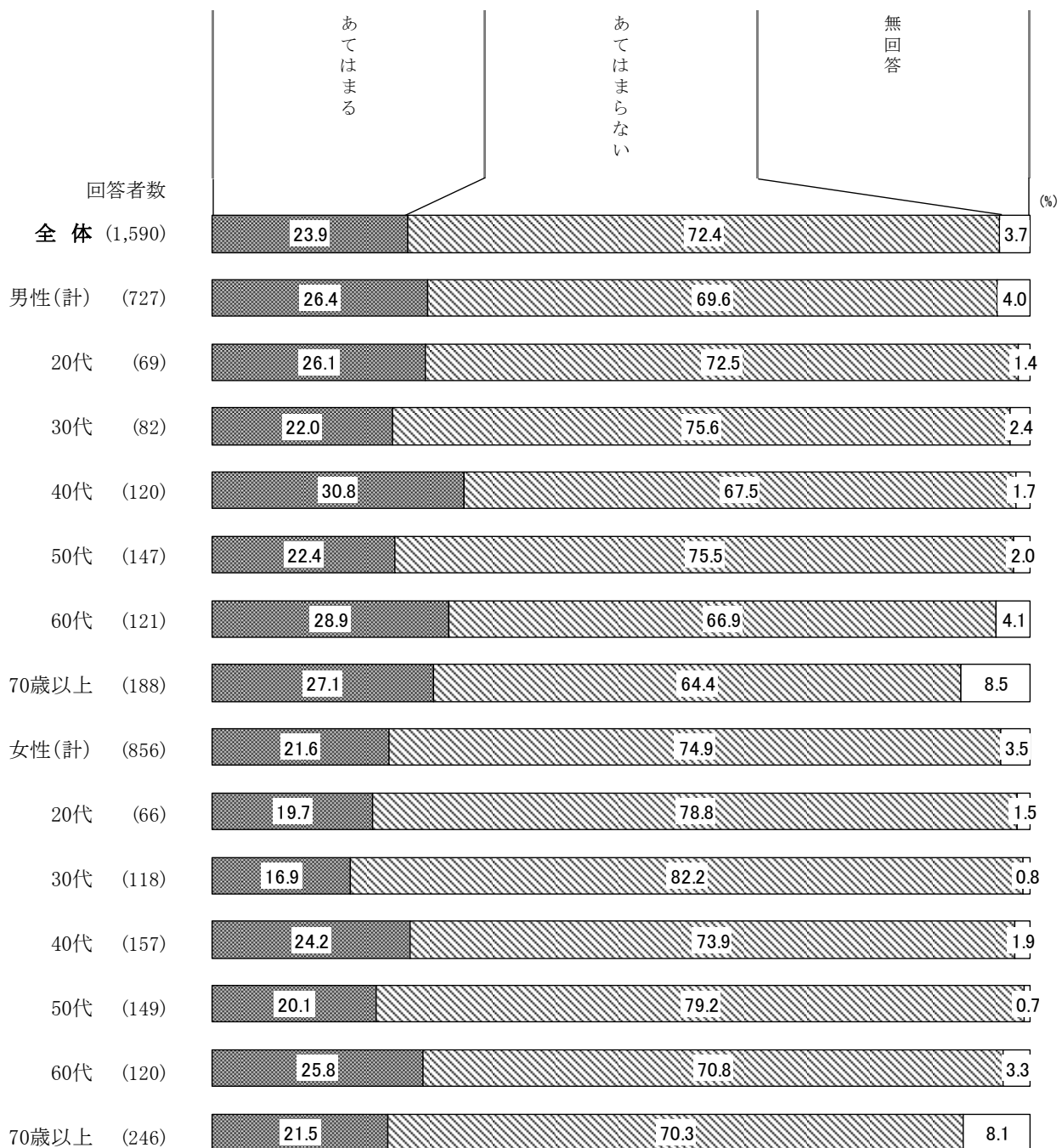
経年でみると、各項目とも、大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は女性（21.6%）より男性（26.4%）の方が高くなっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では、40代と60代で3割前後とやや高く、女性では40代と60代でともに2割台半ばとやや高くなっている。

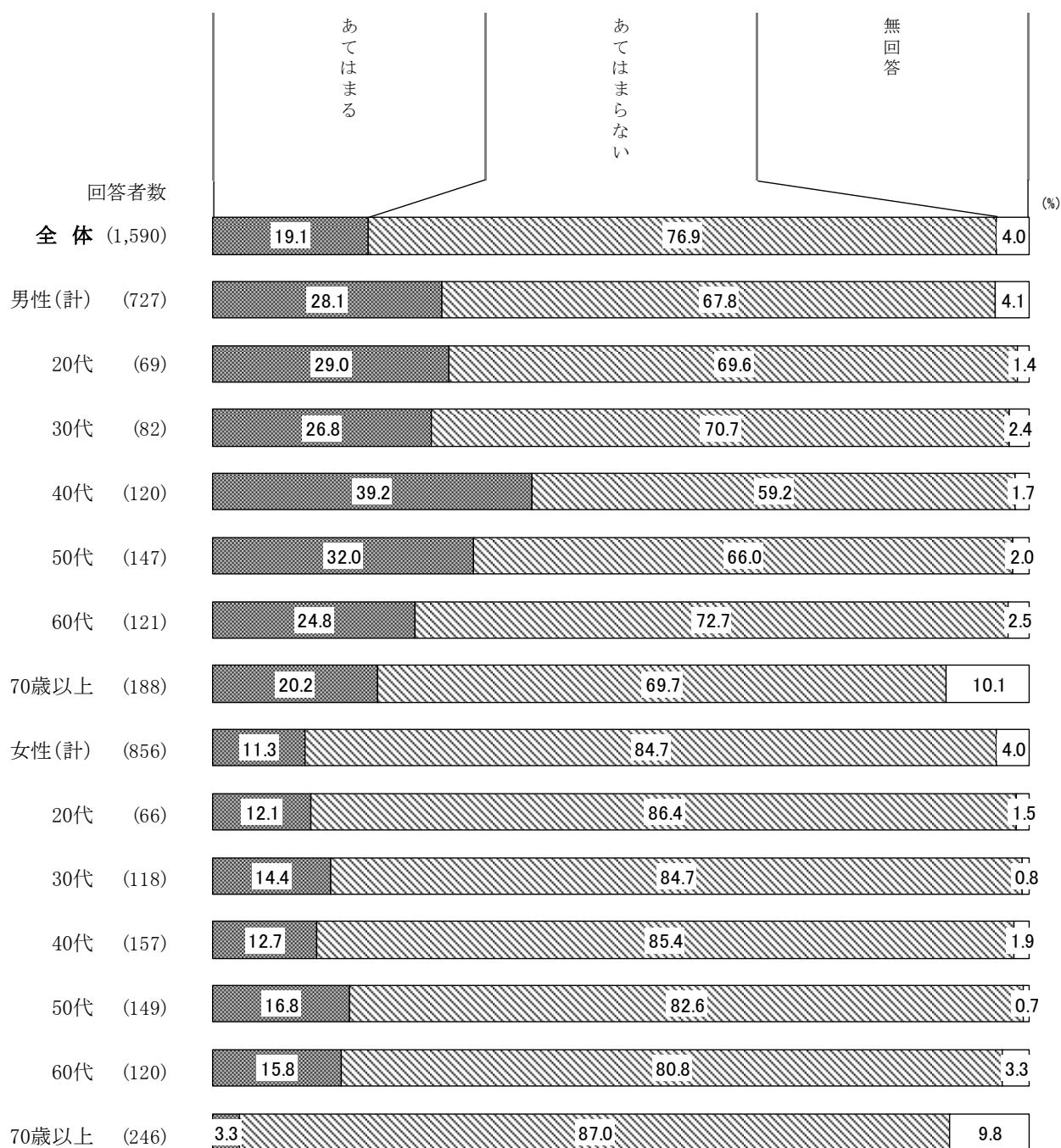
図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣
／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性28.1%、女性11.3%と、男性が女性を大きく上回って、性差が大きくなっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では40代で39.2%と最も高く、50代から70歳以上にかけては、年代が高まるにつれて比率が低くなる傾向がみられる。女性では50代の16.8%を筆頭に、これに60代と30代を加えた3年代層が他の年代よりやや高くなっているが、70歳以上は3.3%と低い。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

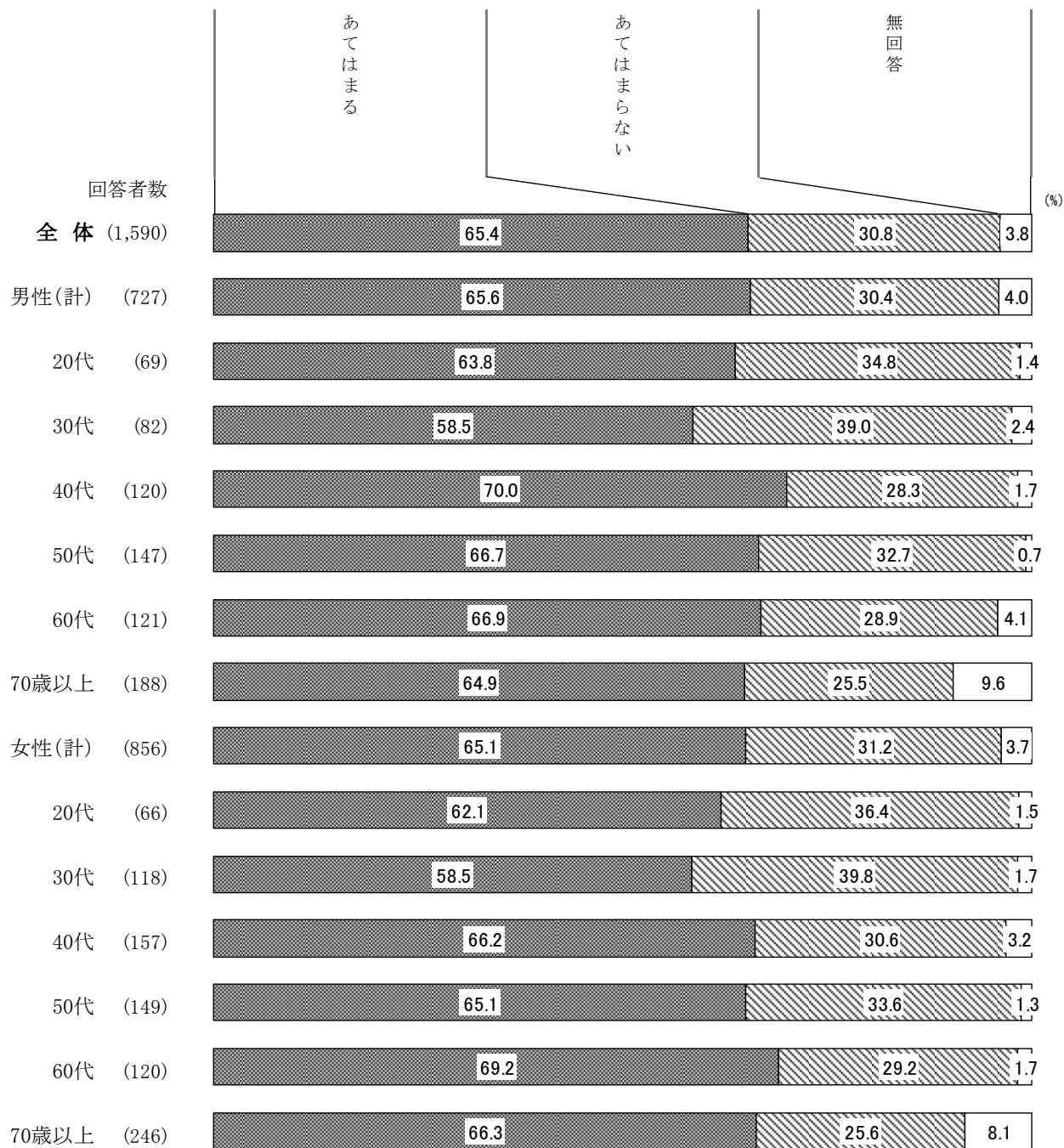


第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では40代で、女性では60代で、それぞれ7割弱から7割でやや高くなっている一方で、30代は男女ともに6割に届かずにやや低くなっている。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある



(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」がともに6割台半ばで上位

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

図5-6-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

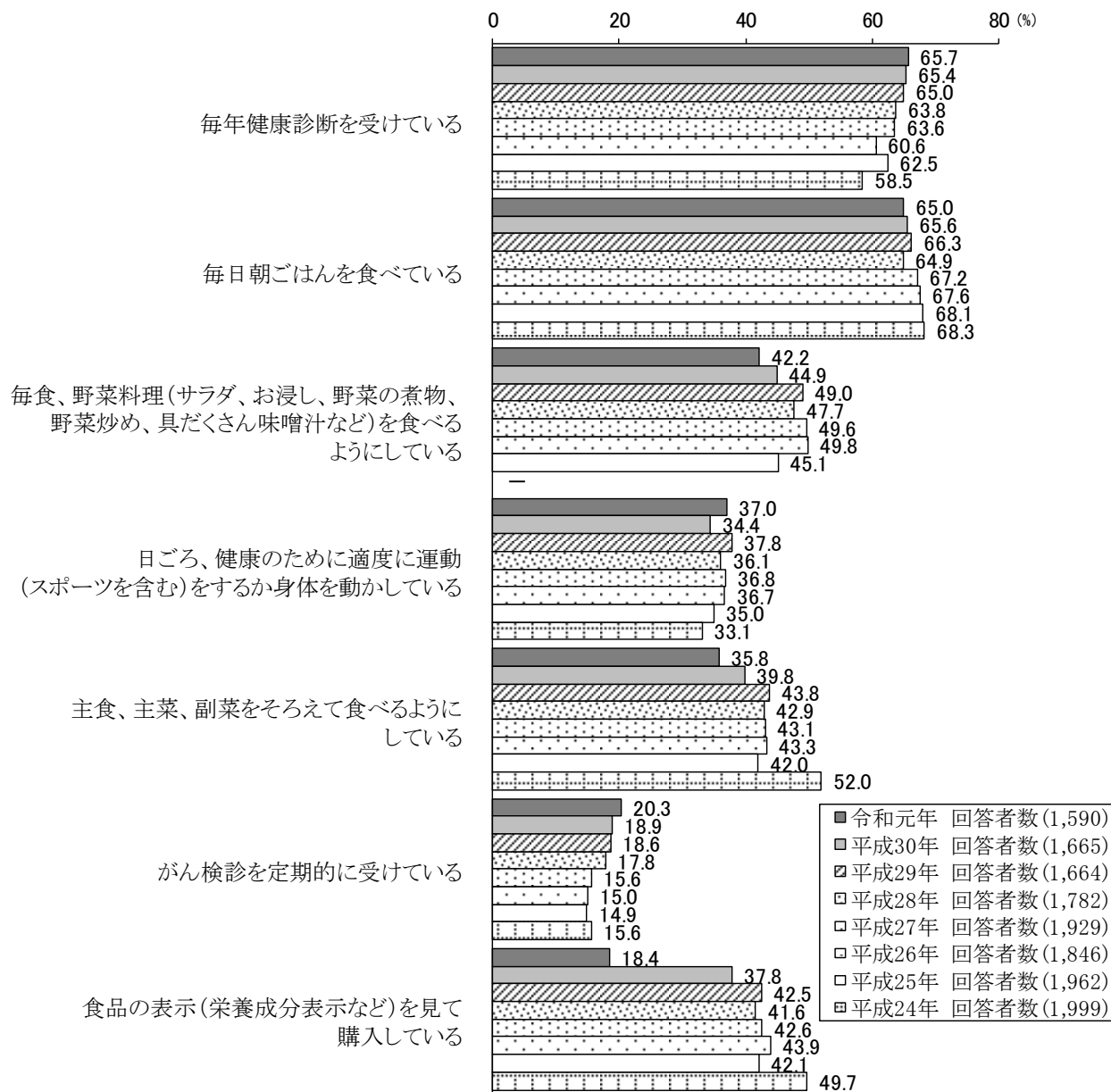
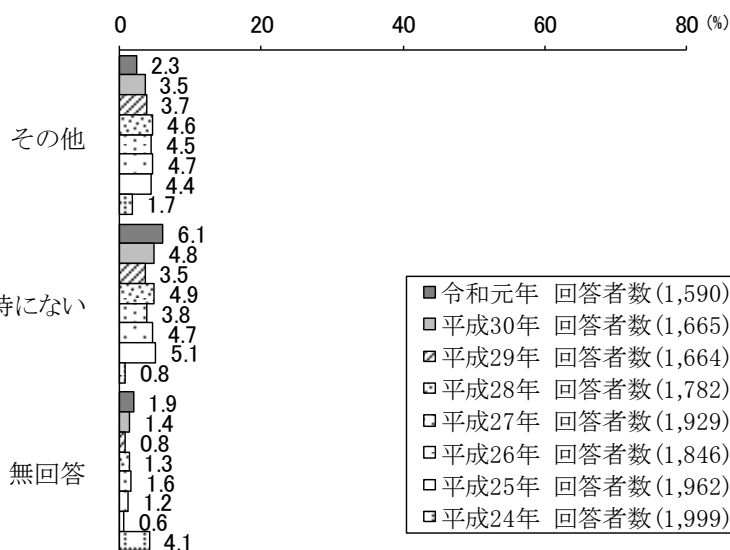


図5-6-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



- ※ 「毎食、野菜料理を食べるようにしている」は平成25年度～平成30年度までは「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」。なお、この項目は平成25年度新設。
- ※ 「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」は平成26年度～平成30年度は「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」、平成25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。
- ※ 「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は平成24年度～平成30年度までは「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」。
- ※ 「食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している」は平成24年度～平成30年度までは「食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している」。

健康維持のために心がけていることとしては、「毎年健康診断を受けている」が65.7%で最も高く、僅差で「毎日朝ごはんを食べている」(65.0%)が続き、以下「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」(42.2%)、「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」(37.0%)、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(35.8%)の順となっている。

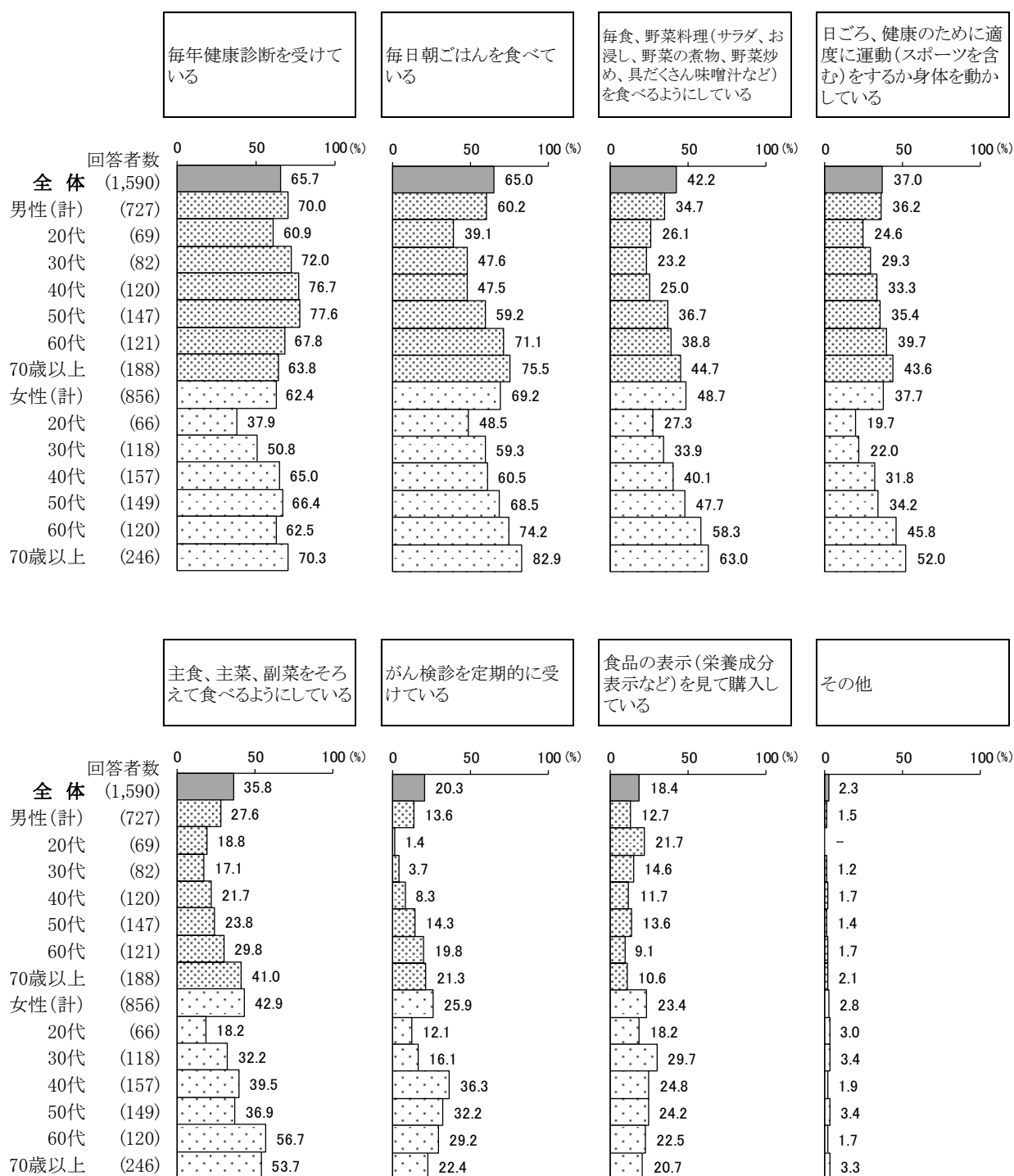
経年でみると、僅差で並ぶ上位2項目の順位が前回と変わっているが、全体としては、順位、数値に大きな変動はみられない。

性別でみると、僅差で最上位の「毎年健康診断を受けている」は男性70.0%、女性62.4%と女性より男性が高くなっているが、僅差で次点の「毎日朝ごはんを食べている」は男性60.2%で女性69.2%、「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」は男性34.7%で女性48.7%、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は男性27.6%で女性42.9%などと、上位8項目中4項目で男性より女性が10ポイント程度高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎年健康診断を受けている」が40代と50代で7割台後半とやや高いのを除くと、「毎日朝ごはんを食べている」などの他の上位項目は、それぞれ70歳以上を筆頭に、年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられる。

女性では、「がん検診を定期的を受けている」が40代で最も高く、「食品の表示（栄養成分表示など）をみて購入している」が30代で最も高いのを除くと、他の上位項目については男性と同様に、それぞれ70歳以上を筆頭に、年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられる。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの

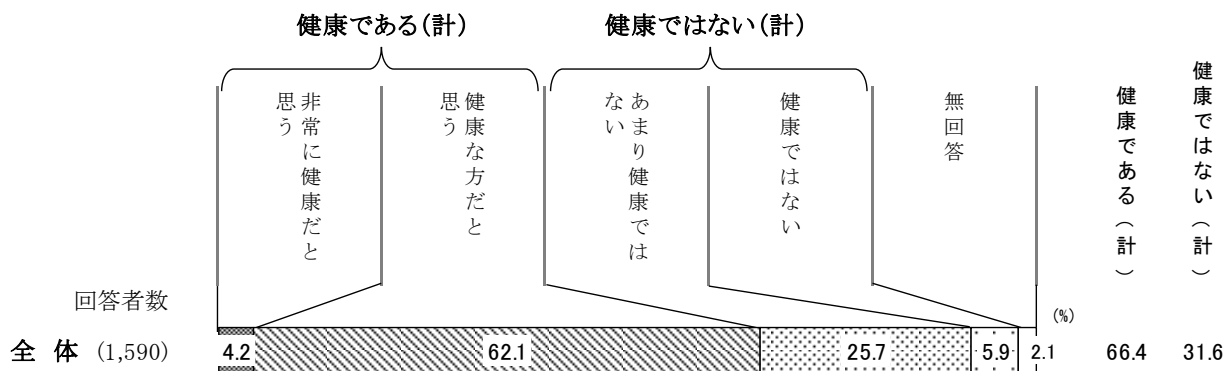


(7) 自身の健康状態について

■ 自分は【健康である】と自認している人は、3人に2人の割合

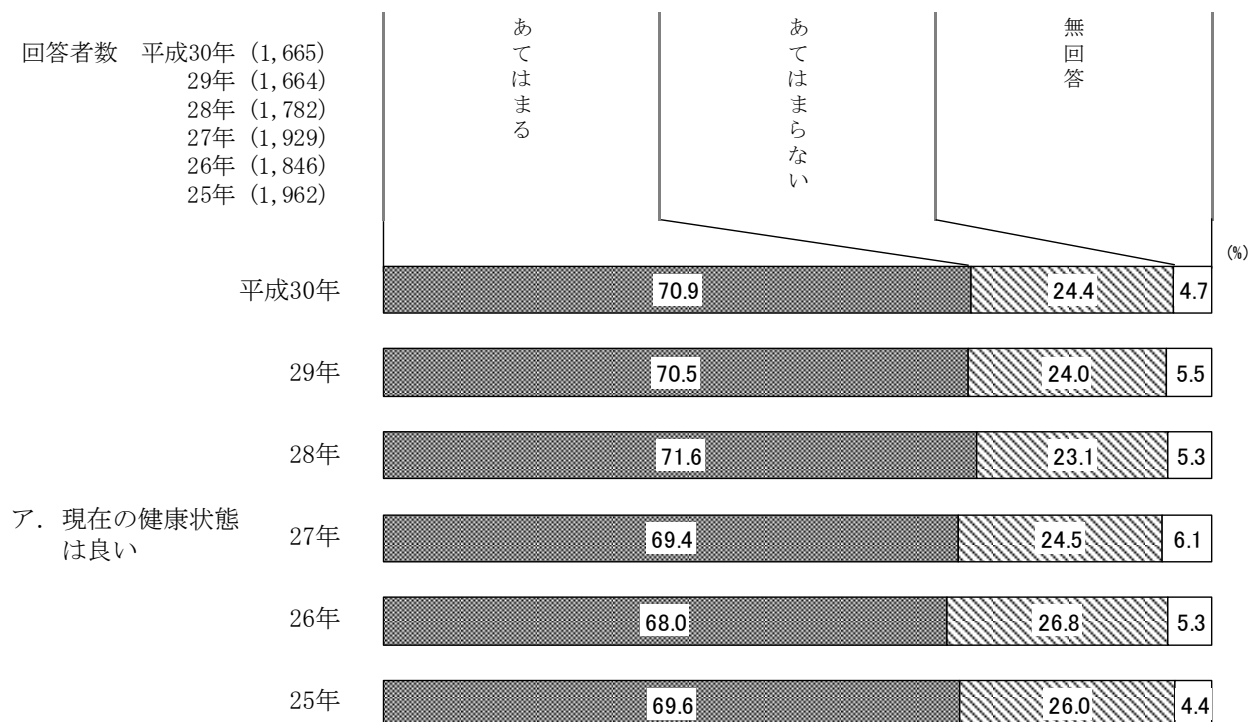
問23 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

図5-7-1 自身の健康状態について



参考／体調や習慣

問 あなたの体調などについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。



※ 今回は独立設問として、4つの選択肢から選んでもらった「自身の健康状態」については、平成25～30年度では、「現在の健康状態はよい」という項目に対して「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた。

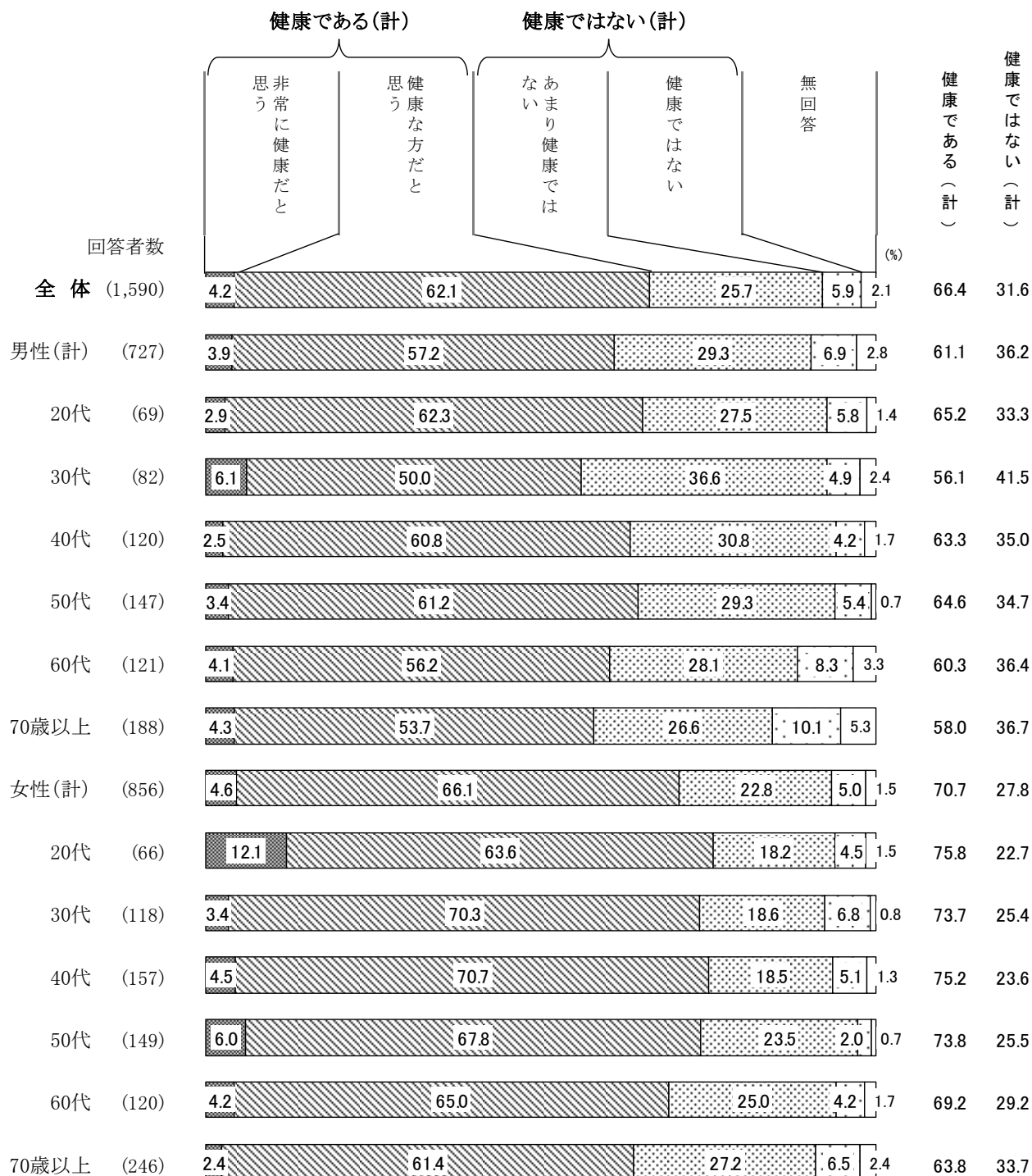
今回の令和元年度調査より、新たに4択で聴取することになった「自身の健康状態」についての結果をみると、「健康な方だと思う」が62.1%を占めて、これに「非常に健康だと思う」(4.2%)を合わせた【健康である】が66.4%となっている。一方、「あまり健康ではない」(25.7%)と「健康ではない」(5.9%)を合わせた【健康ではない】(31.6%)は3割強となっている。

この令和元年の結果を、参考までに、前回までの「現在の健康状態はよい」という項目で「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた結果と比較すると、今回の【健康である】(66.4%)の割合は、平成25年以降7割前後で推移していた【あてはまる】(68.0%~71.6%)の割合を僅かながら下回っている。

第3章 調査結果の分析〈健康〉

性別でみると、【健康である】は、男性 61.1%、女性 70.7%で、女性の方が 9.6 ポイント高い。
 性・年代別でみると、【健康である】は、男性では、20代で65.2%、40代で63.3%、50代で64.6%と、この3年代層でやや高くなっているが、30代は56.1%で最も低くなっている。
 女性では、【健康である】は20代で75.8%、40代で75.2%とこの2年代層でやや高く、70歳以上で63.8%と最も低くなっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／自身の健康状態について

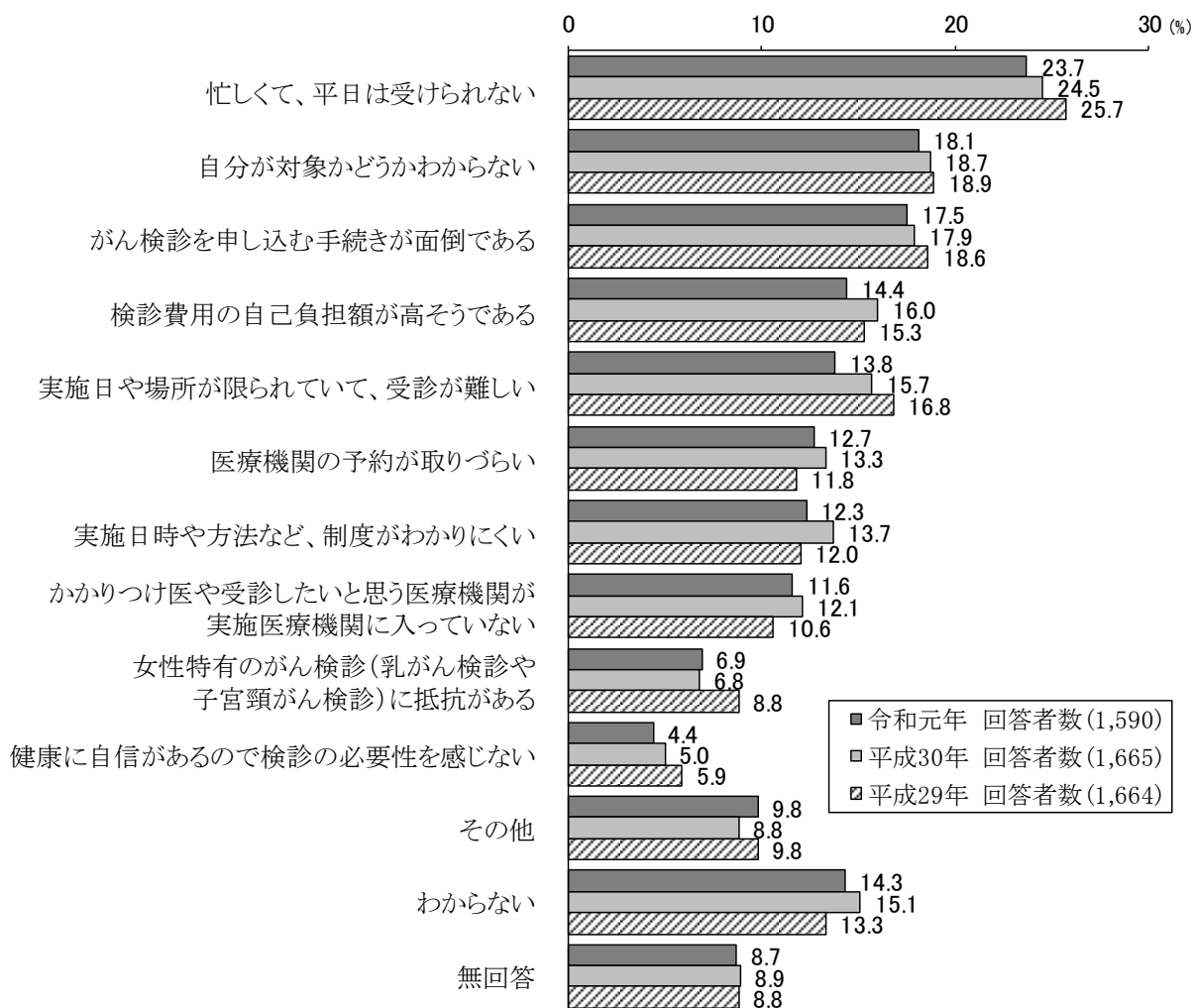


(8) がん検診制度の感想

■ 「忙しくて、平日は受けられない」が最多も、感想は多岐にわたる

問24 足立区では区民向けのがん検診を実施していますが、がん検診の制度について、どのように感じていますか（〇はあてはまるものすべて）。

図5-8-1 経年比較／がん検診制度の感想



区のがん検診の制度についての意識をみると、「忙しくて、平日は受けられない」が23.7%で最も高く、以下「自分が対象かどうかわからない」(18.1%)、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」(17.5%)の順で続いている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられないが、各項目の比率は前回は僅かずつ下回ってものが多い。

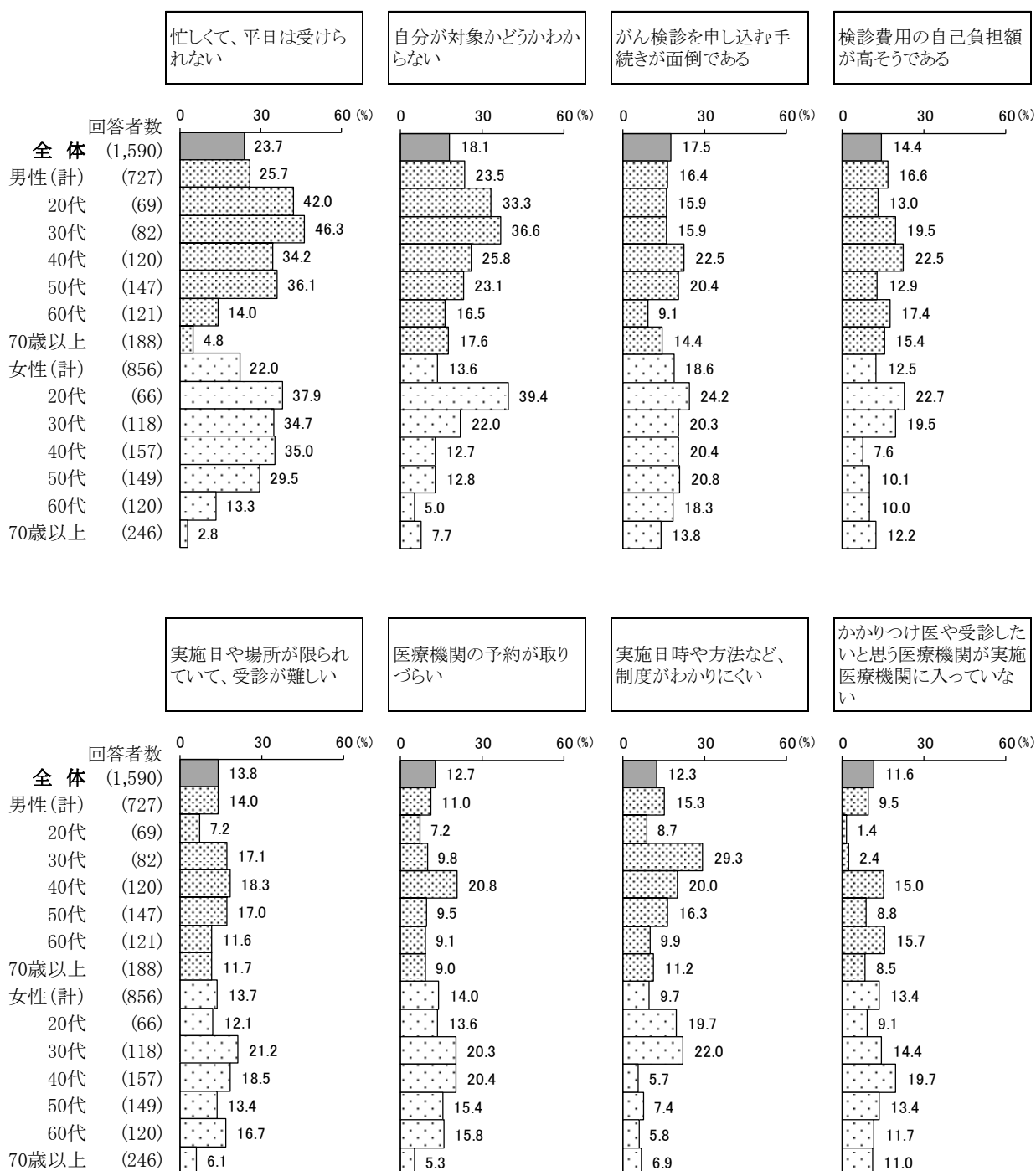
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、男性では「自分が対象かどうか分からない」が23.5%と、女性（13.6%）を上回っており、他の項目にくらべると性差が大きい項目となっている。

性・年代別でみると、男性の場合、「忙しくて、平日は受けられない」は20代と30代でそれぞれ42.0%、46.3%と高く、「自分が対象かどうか分からない」は20代と30代でそれぞれ33.3%、36.6%と高くなっている。

女性の場合、20代では「自分が対象かどうか分からない」が39.4%ととくに高く、「忙しくて、平日は受けられない」や「がん検診を申し込む手続きが面倒である」、「検診費用の自己負担額が高そうである」なども他年代を上回り最も高くなっている。

図5-8-2 性別、性・年代別／がん検診制度の感想／上位8項目

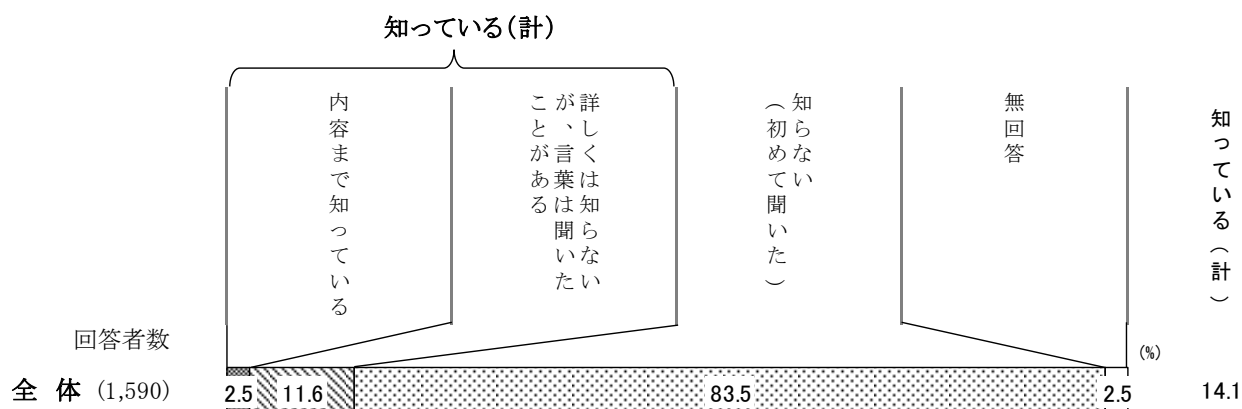


(9) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

■ 【知っている】は1割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ばを占める

問25 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。
 ※ 「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

図5-9-1 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が83.5%を占めて多く、「内容まで知っている」（2.5%）はかなり少ない。この「内容まで知っている」に「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（11.6%）を合わせた【知っている】は14.1%と1割台半ばとなっている。

性別で見ると、【知っている】は男性で14.9%、女性で13.3%と、男女別に大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、【知っている】は、男性では40代で25.0%で他の年代に比べて高くなっているが、女性では、各年代ともに1割強から1割前半で、ほとんど違いはみられない。

図5-9-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



6 スポーツ

-
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 運動・スポーツを行っている場所
 - (4) 障がい者スポーツへの意識・行動
 - (5) スポーツボランティア活動への意識・行動
 - (6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること
 - (7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無
 - (8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動
 - (9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ
 - (10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
-

6 スポーツ

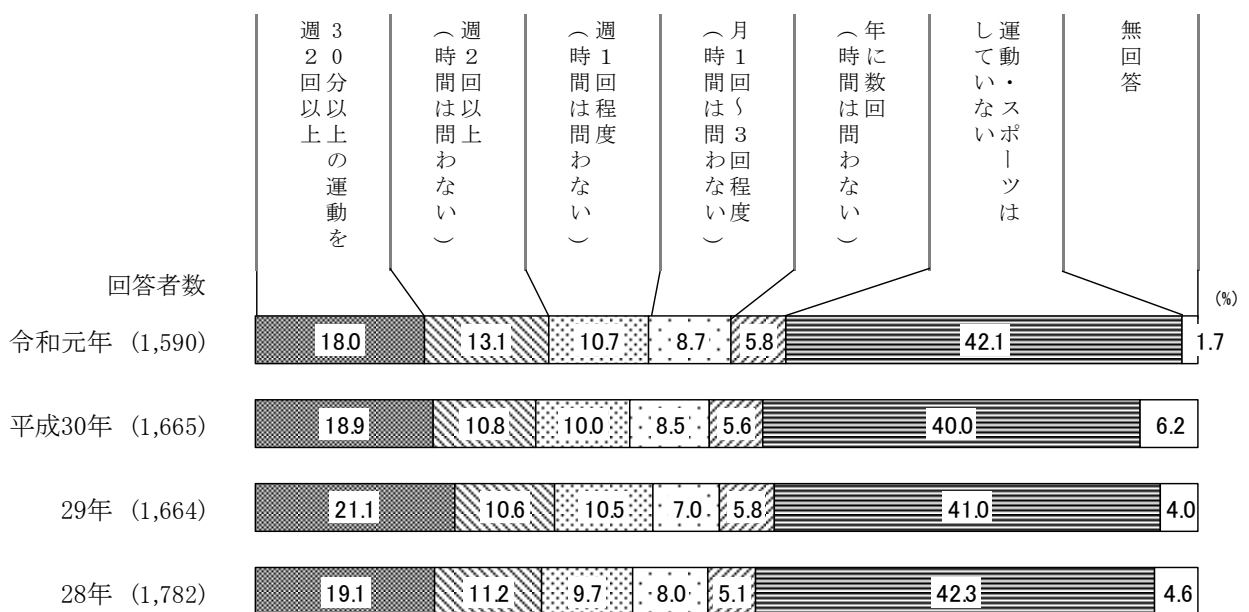
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

■ 「運動・スポーツはしていない」という人が4割強

問26 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 経年比較／日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週2回以上」が18.0%で最も多く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（13.1%）、「週1回程度（時間は問わない）」（10.7%）の順で続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は42.1%を占めている。

経年でみると、各年の回答分布に大きな変化はみられない。

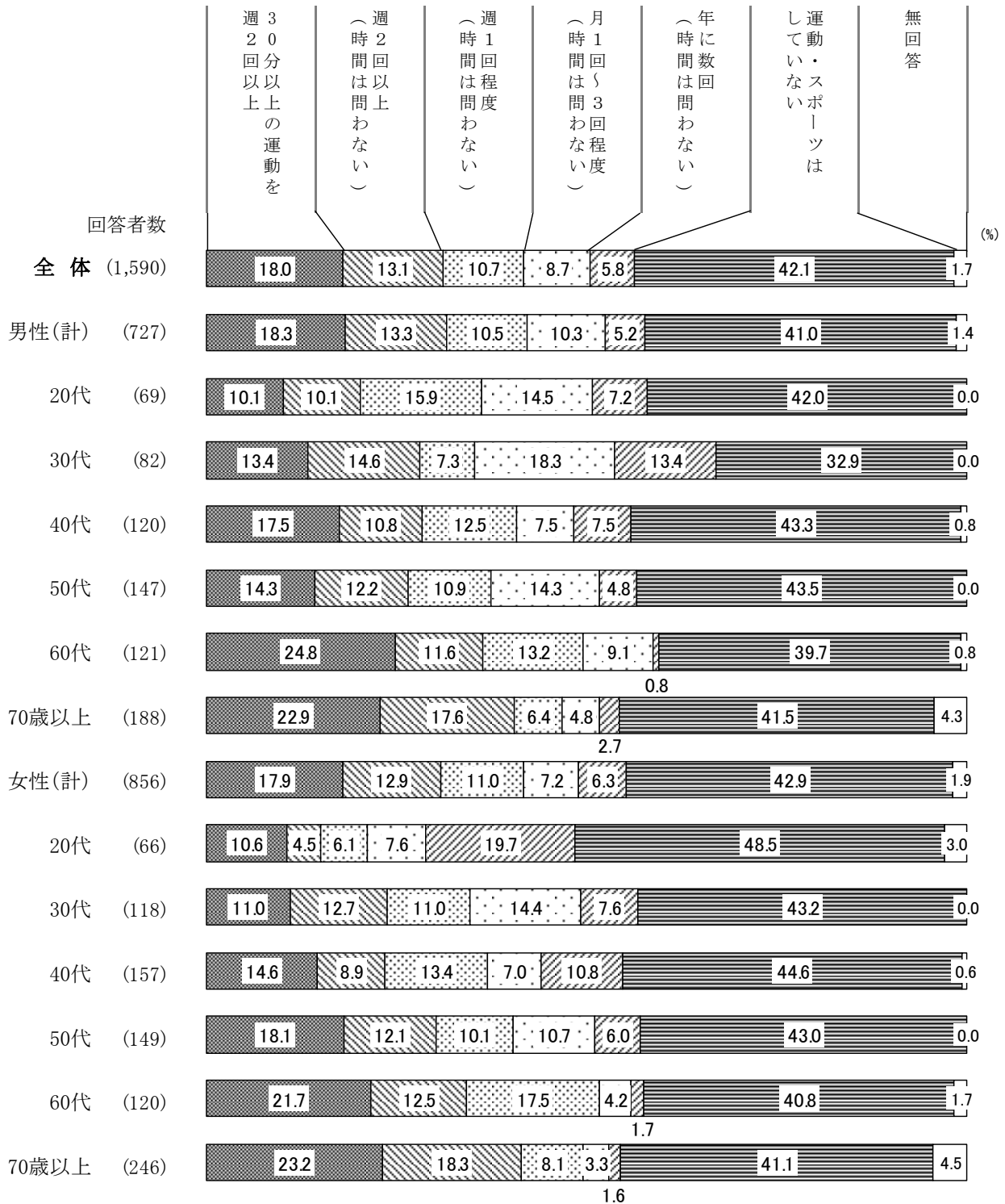
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」がともに2割強から2割台半ばと他の年代より高くなっている。一方、30代では「運動・スポーツはしていない」が32.9%と他の年代に比べて低くなっている。

女性では、60代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」が2割を超えて高くなっている。一方、20代では「運動・スポーツはしていない」が5割弱を占めて高くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

■ 「ウォーキング」が4割台半ばで突出し、「健康体操」と「筋力トレーニング」も各2割強

問26で1～5のいずれかをお答えの方に

問26-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-2-1-① 経年比較/継続的に実施している運動・スポーツ

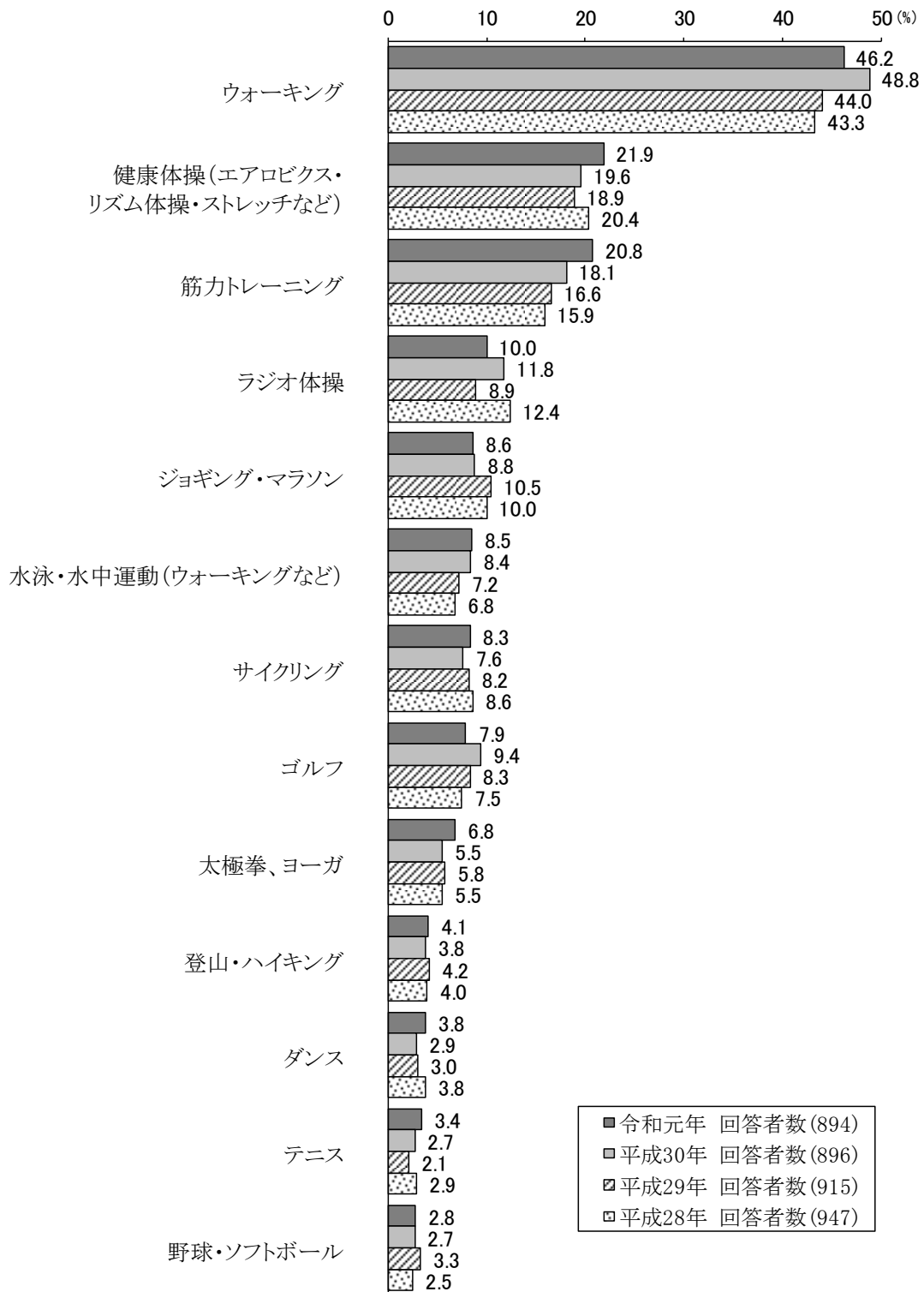
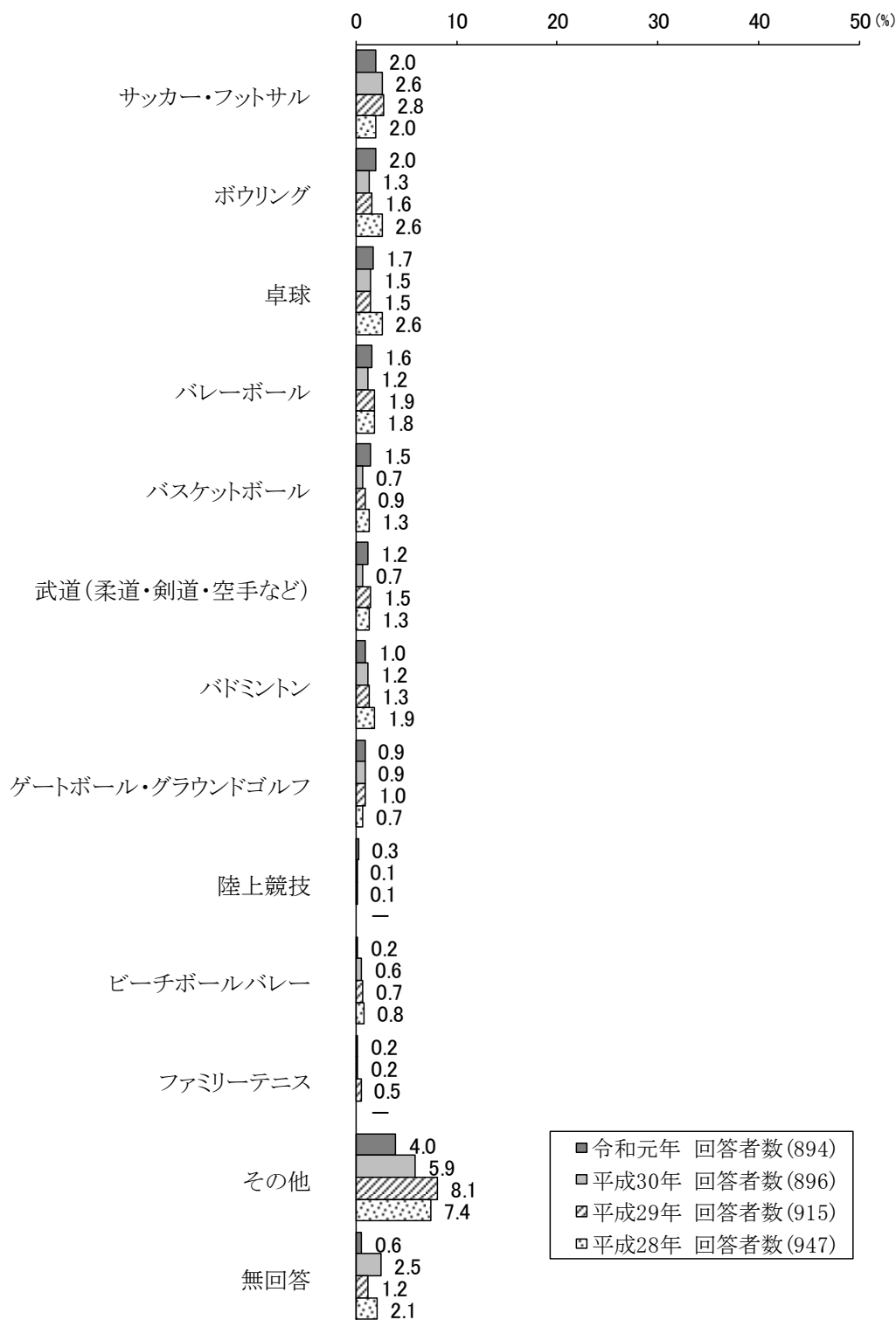


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、「ウォーキング」が46.2%で最も高く、以下「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」(21.9%)、「筋力トレーニング」(20.8%)の順で続いている。

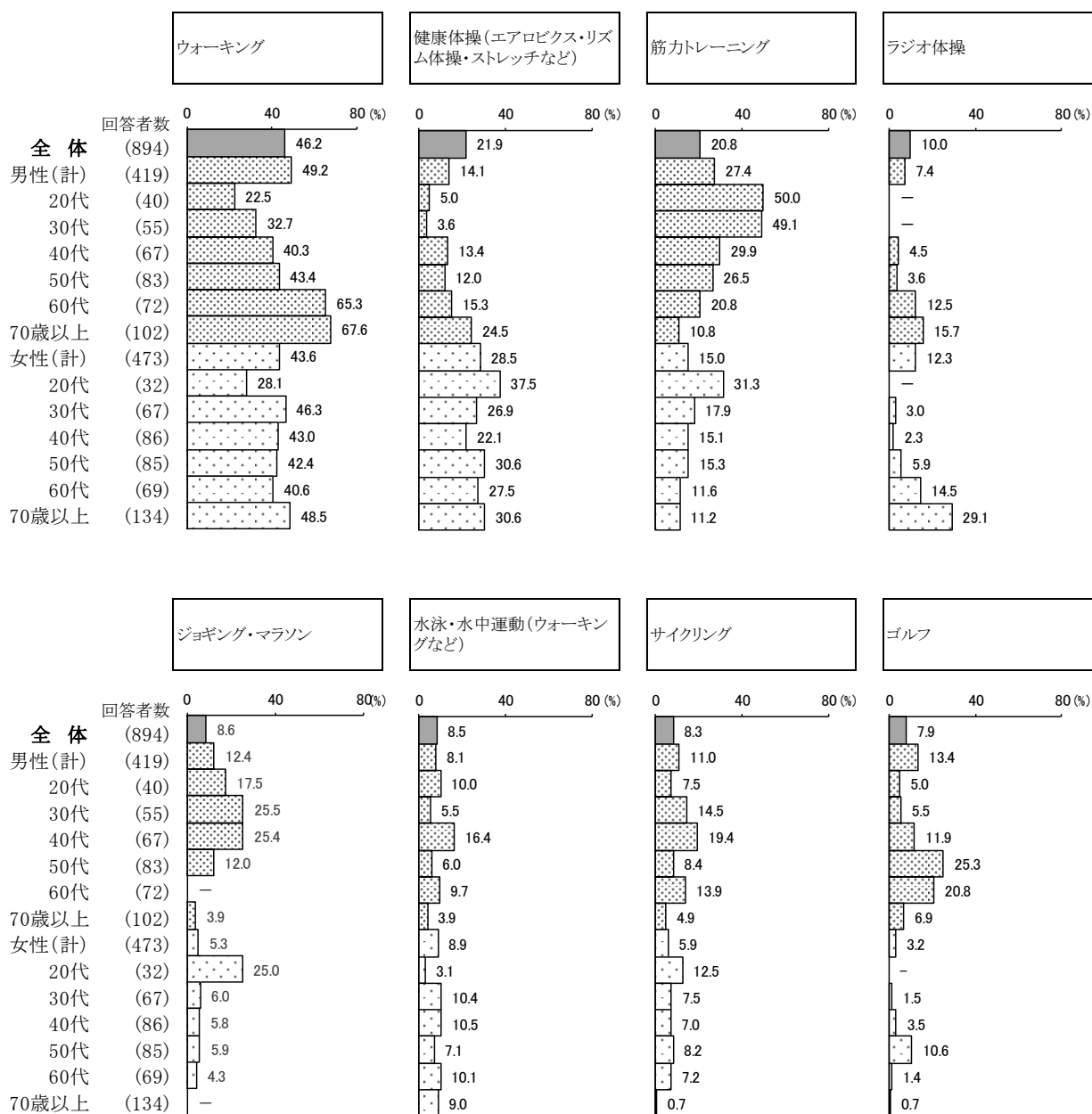
経年でみると、上位3項目の順位は変わらないものの、1位の「ウォーキング」は平成30年より微減しているが、3位の「筋力トレーニング」3年続けて漸増傾向にある。

性別でみると、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」は女性が28.5%、男性が14.1%で女性の方が14.4ポイント高いが、「筋力トレーニング」と「ゴルフ」は男性の方が女性よりそれぞれ10ポイント以上高くなっており、この3項目で性差がやや大きい。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上の2年代層で「ウォーキング」が6割台半ば以上ととくに高く、「筋力トレーニング」は20代と30代でともに約5割ととくに高い。

女性では、20代で「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が4割弱で最も高く、20代は「筋力トレーニング」と「ジョギング・マラソン」もとくに高い。一方、「ラジオ体操」は70歳以上で29.1%ととくに高くなっている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを行っている場所

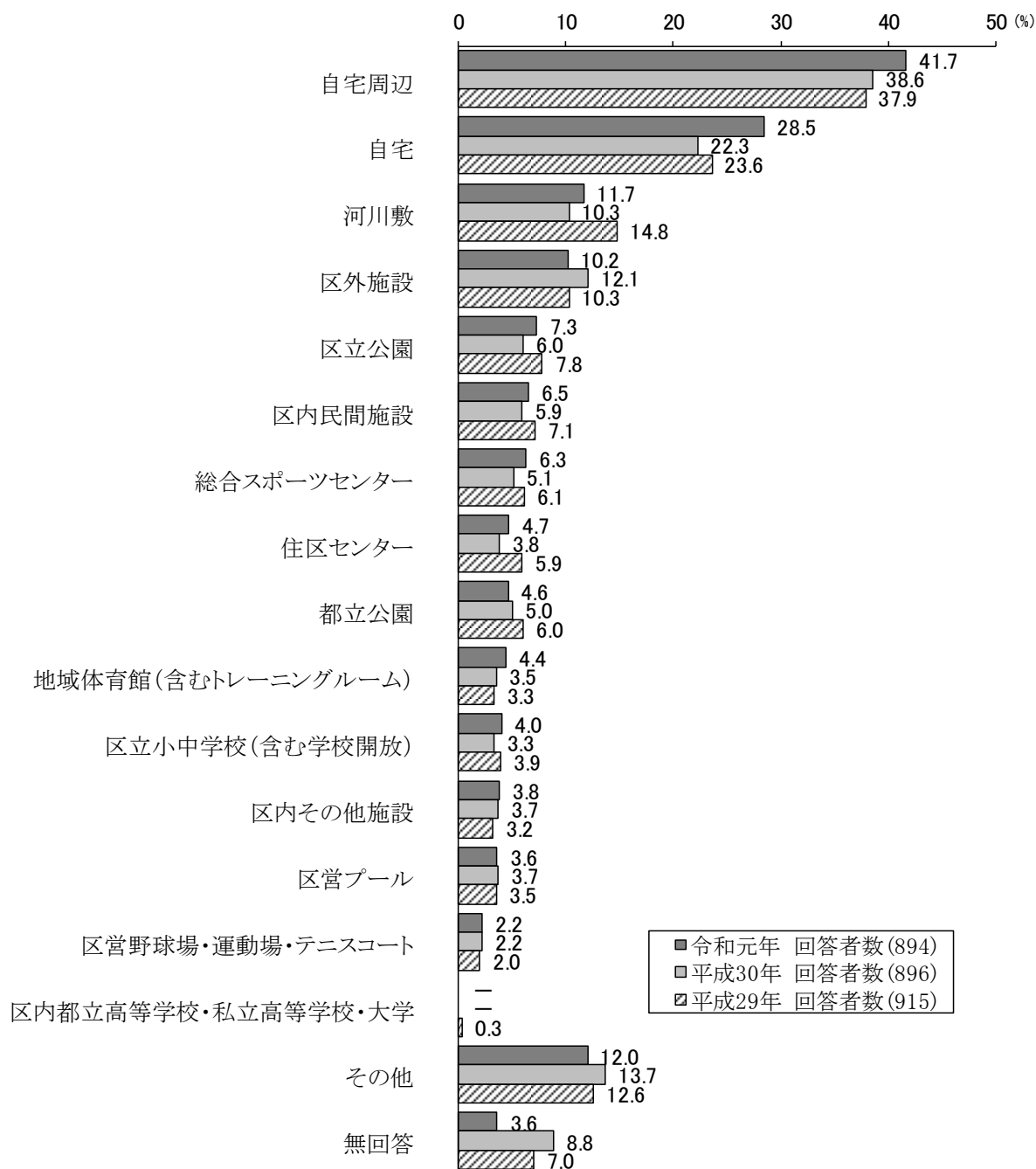
■ 「自宅周辺」が4割強、「自宅」が3割弱で上位

問26で1～5のいずれかをお答えの方に

問26-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-3-1 経年比較/運動・スポーツを行っている場所



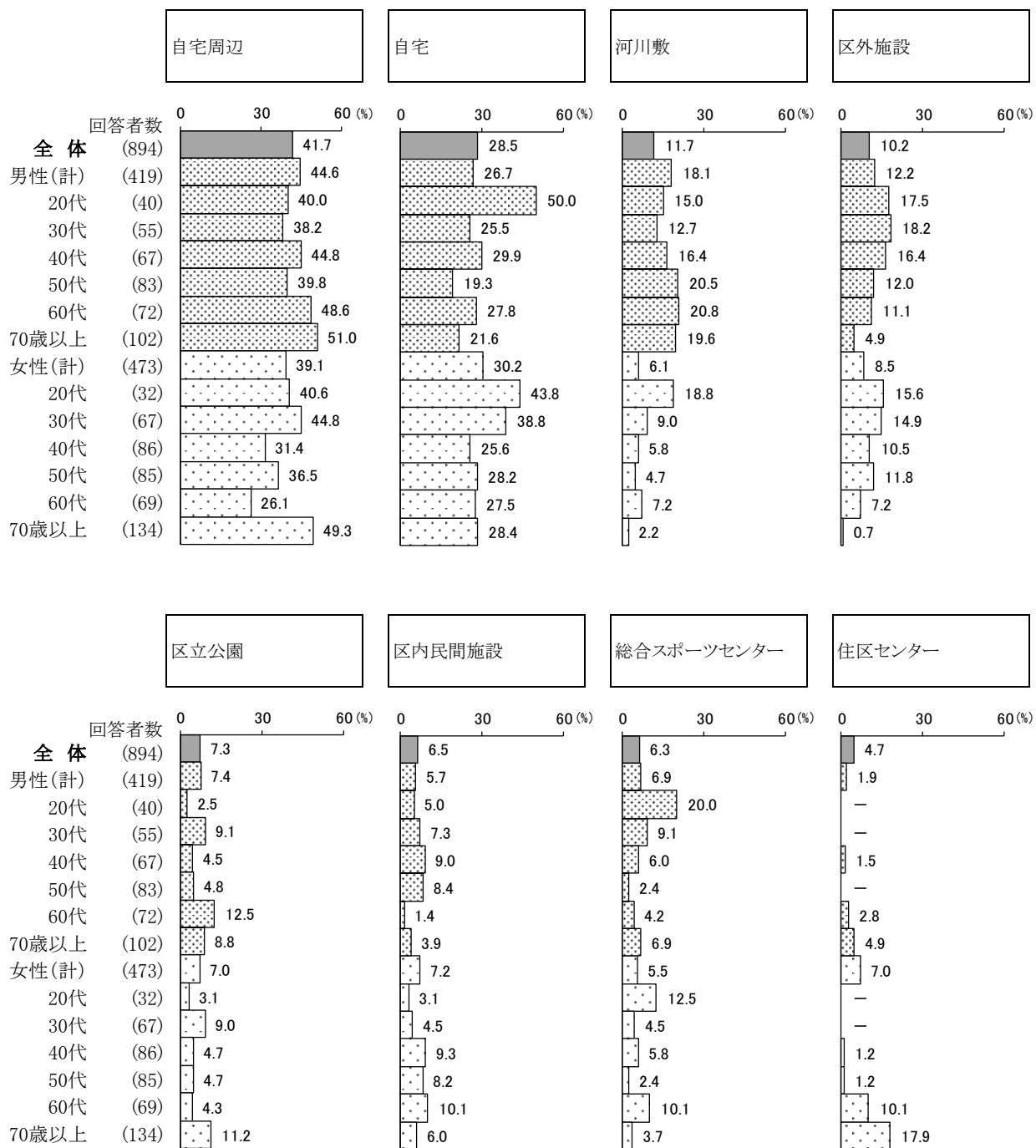
運動・スポーツの実施場所としては、「自宅周辺」が41.7%で最も高く、これに「自宅」(28.5%)が続いている。

経年でみると、上位の「自宅周辺」と「自宅」はともに前回より増加している。

性別でみると、上位4項目のうち、「河川敷」は男性が18.1%と女性（6.1%）より高く、「自宅周辺」と「区外施設」も男性の方がやや高い中で、「自宅」だけは女性が30.2%で男性（26.7%）よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「自宅周辺」は男女ともに70歳以上で最も高く、「自宅」は男女ともに20代で最も高くなっており、中でも男性20代では50.0%ととくに高い。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行っている場所／上位8項目

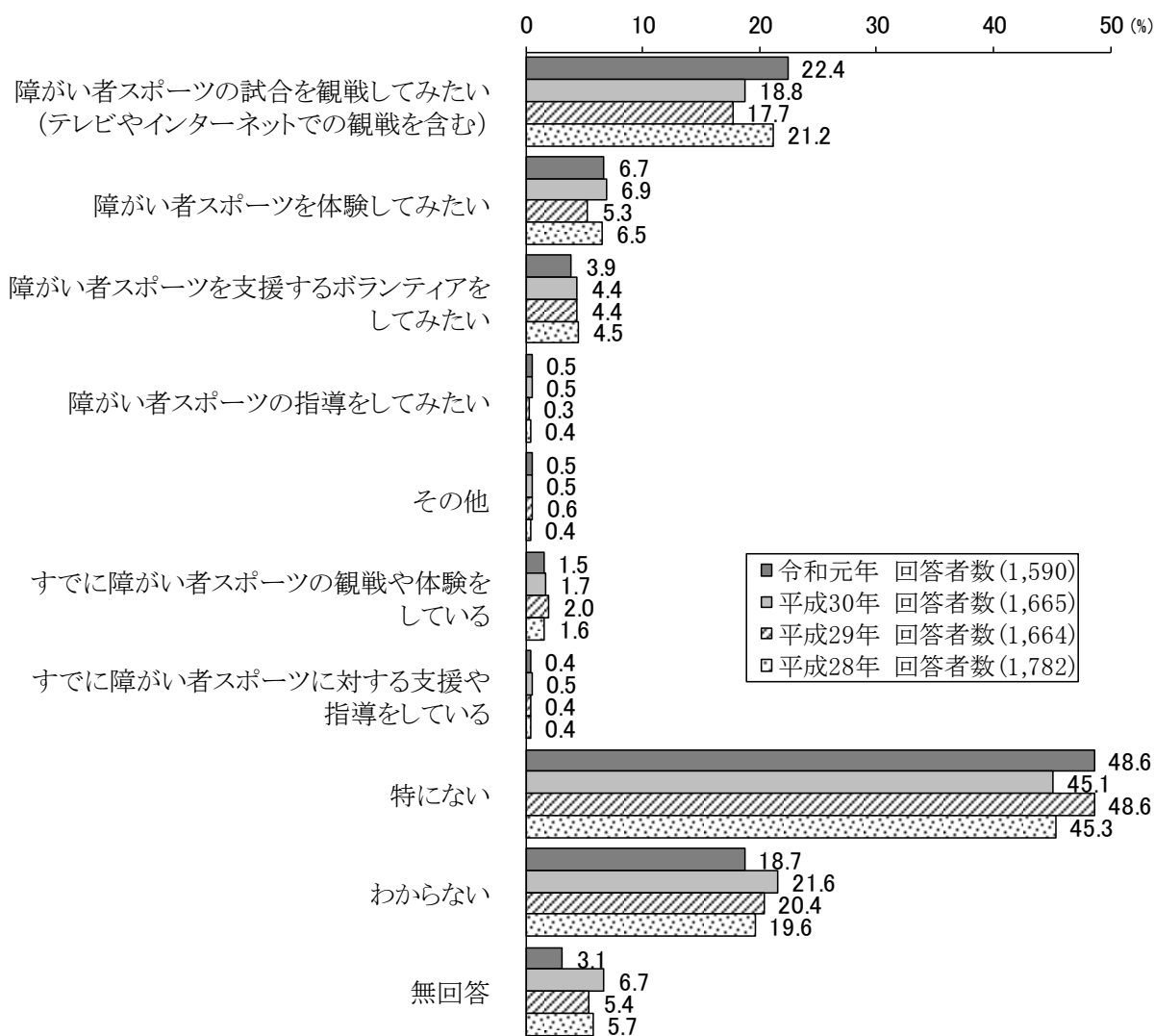


(4) 障がい者スポーツへの意識・行動

■ “観戦してみたい”が2割強ながら、「特にない」が5割弱

問27 あなたは、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいですか
(〇はあてはまるものすべて)。

図6-4-1 経年比較/障がい者スポーツへの意識・行動



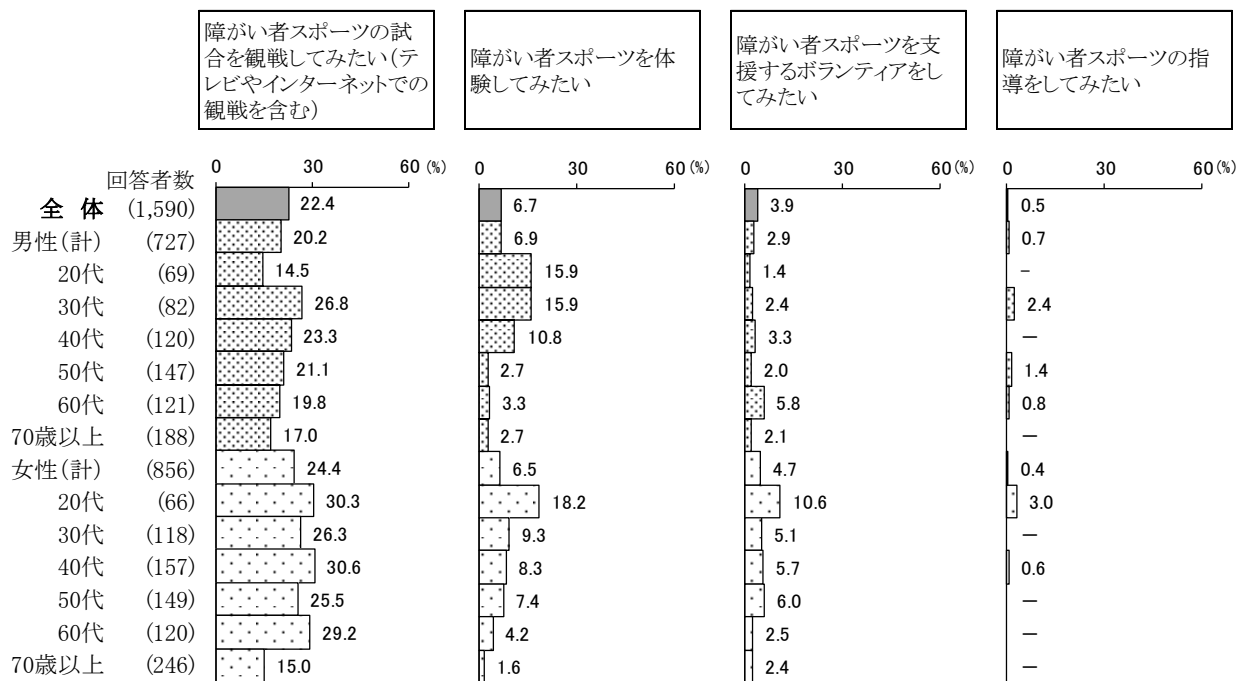
障がい者スポーツについての意識・行動では、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい (テレビやインターネットでの観戦を含む)」が22.4%で最も高く、以下「障がい者スポーツを体験してみたい」(6.7%)、「障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい」(3.9%)の順で続いている。一方、「特にない」は48.6%となっている。

経年でみると、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい (テレビやインターネットでの観戦を含む)」が、前回より3.6ポイント増加したものの、4年間に亘って2割前後で、大きな変化はみられない。

性別でみると、大きな男女差はみられないが、最上位の「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」は男性（20.2%）より女性（24.4%）の方がやや高い。

性・年代別でみると、最上位の「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」は、女性の20代、40代、60代の3年代層でそれぞれ3割前後と高く、男性では30代で2割台半ばとやや高くなっている。また、次点の「障がい者スポーツを体験してみたい」は、男女の20代と男性30代でそれぞれ1割台半ばから2割弱で高くなっており、中でも女性20代で18.2%と最も高くなっている。

図6-4-2 性別、性・年代別／障がい者スポーツへの意識・行動

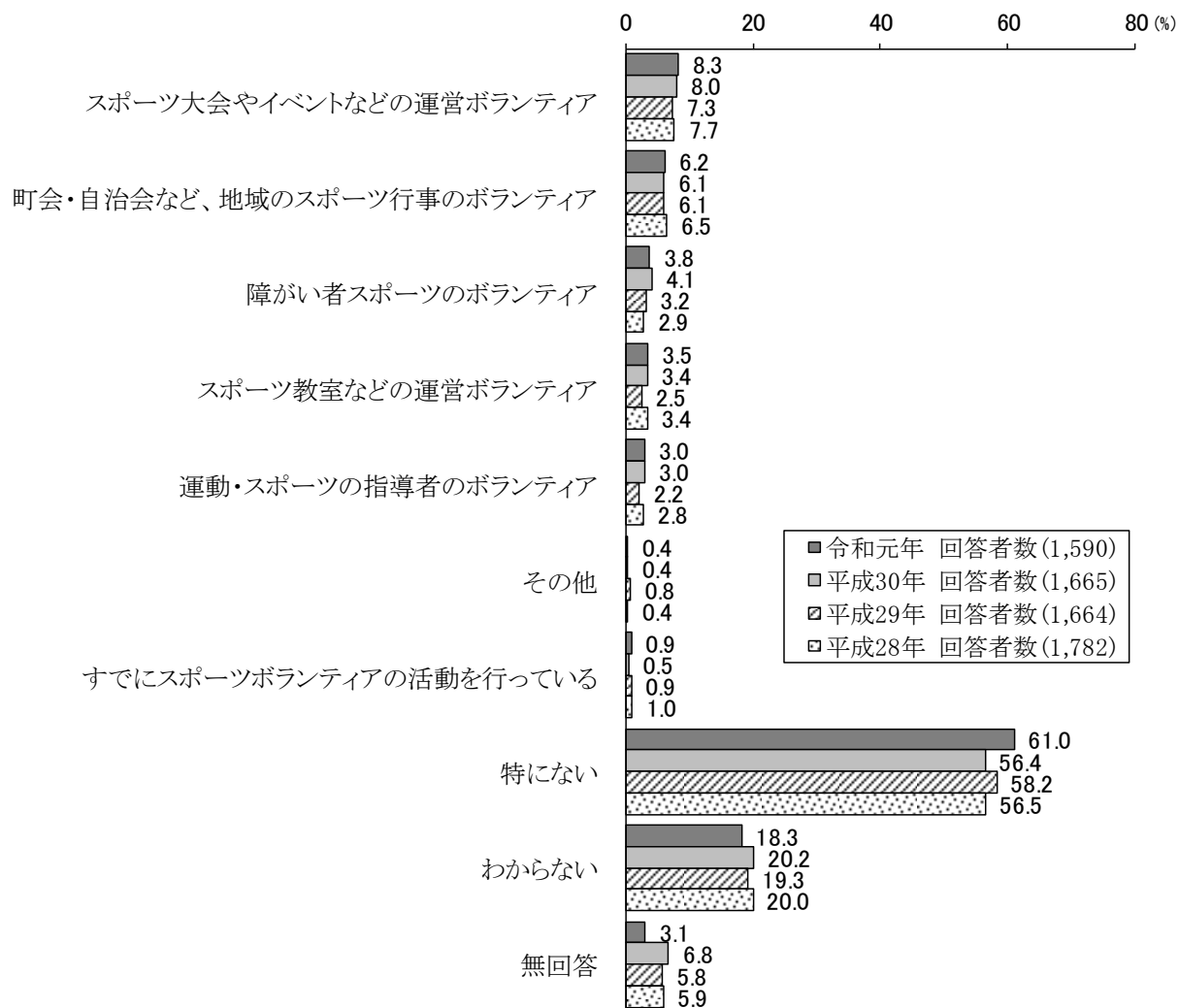


(5) スポーツボランティア活動への意識・行動

■ “運営ボランティア”と“スポーツ行事のボランティア”が上位も、ともに1割未満

問28 あなたは、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいですか
(〇はあてはまるものすべて)。

図6-5-1 経年比較/スポーツボランティア活動への意識・行動



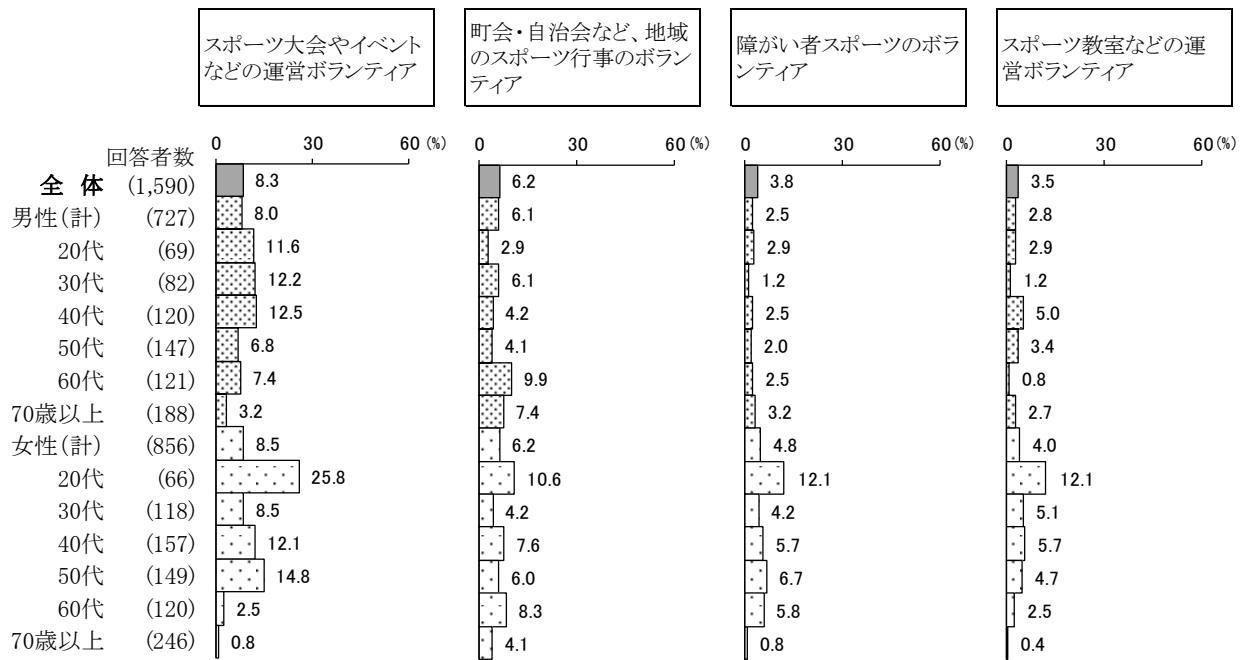
スポーツボランティア活動でしてみたいことについては、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が8.3%で最も高く、以下「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.2%)、「障がい者スポーツのボランティア」(3.8%)、「スポーツ教室などの運営ボランティア」(3.5%)の順が続いている。一方、「特にない」は61.0%で6割強となっている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられないが、「特にない」は前回より4.6ポイント増加している。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」は、女性20代が25.8%で他の性・年代層を上回って最も高く、女性20代は他の上位3項目でもそれぞれ1割台に達して高くなっている。

図6-5-2 性別、性・年代別／スポーツボランティア活動への意識・行動／上位4項目

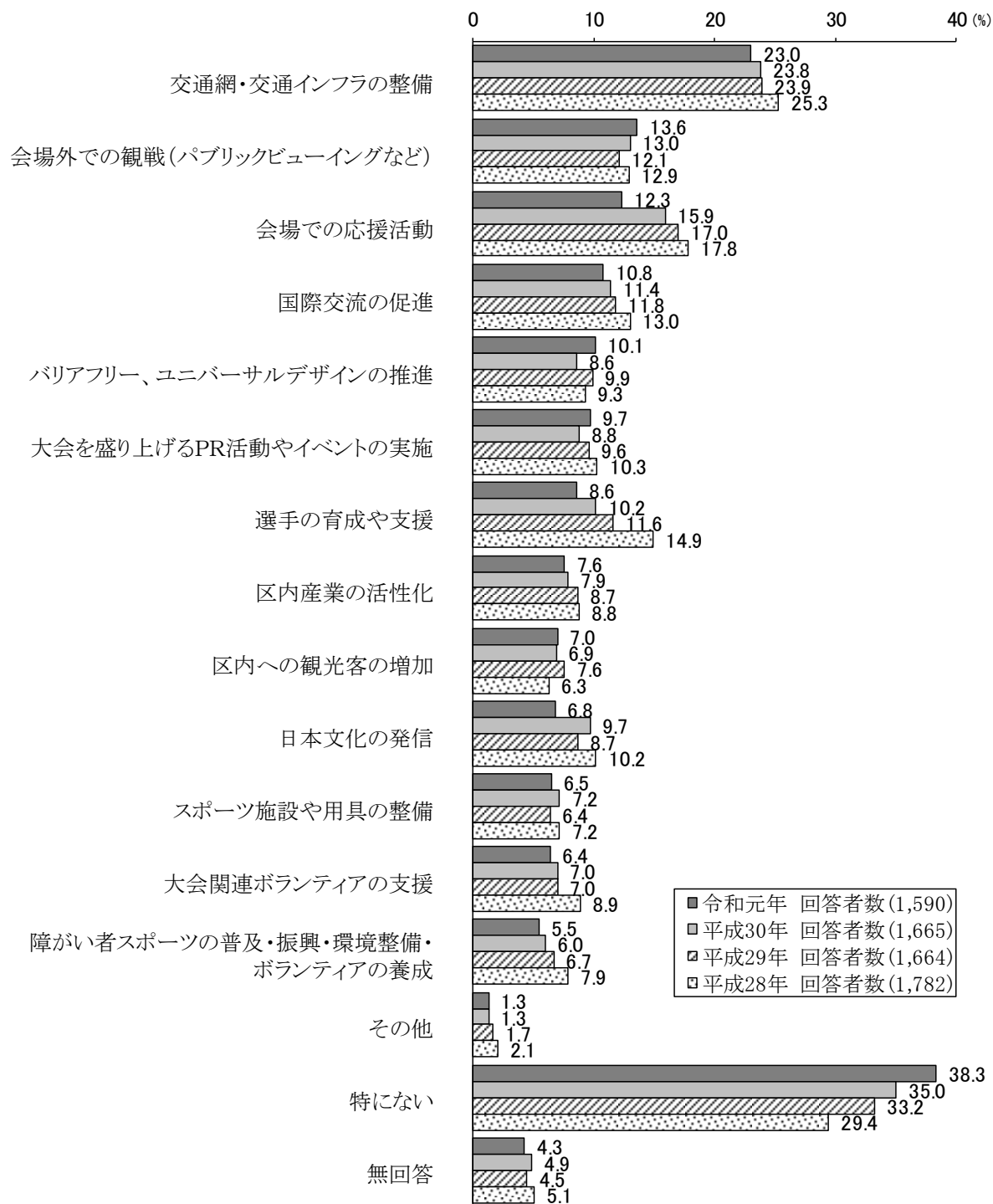


(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること

■ 「交通網・交通インフラの整備」が2割強で最多も、「特にない」が4割弱に達する

問29 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みに関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

図6-6-1 経年比較
 ／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みで関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が23.0%で最も高く、以下「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」（13.6%）、「会場での応援活動」（12.3%）、「国際交流の促進」（10.8%）、「バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進」（10.1%）の順で続いている。一方、「特にない」が38.3%となっている。

経年でみると、順位や比率に大きな変化はみられないものの、今回の上位4項目の中で、次点の「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」以外の3項目は、最近3年間に亘って各年微減を続けて漸減傾向にあり、一方、「特にない」は3年続けて漸増傾向がみられる。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

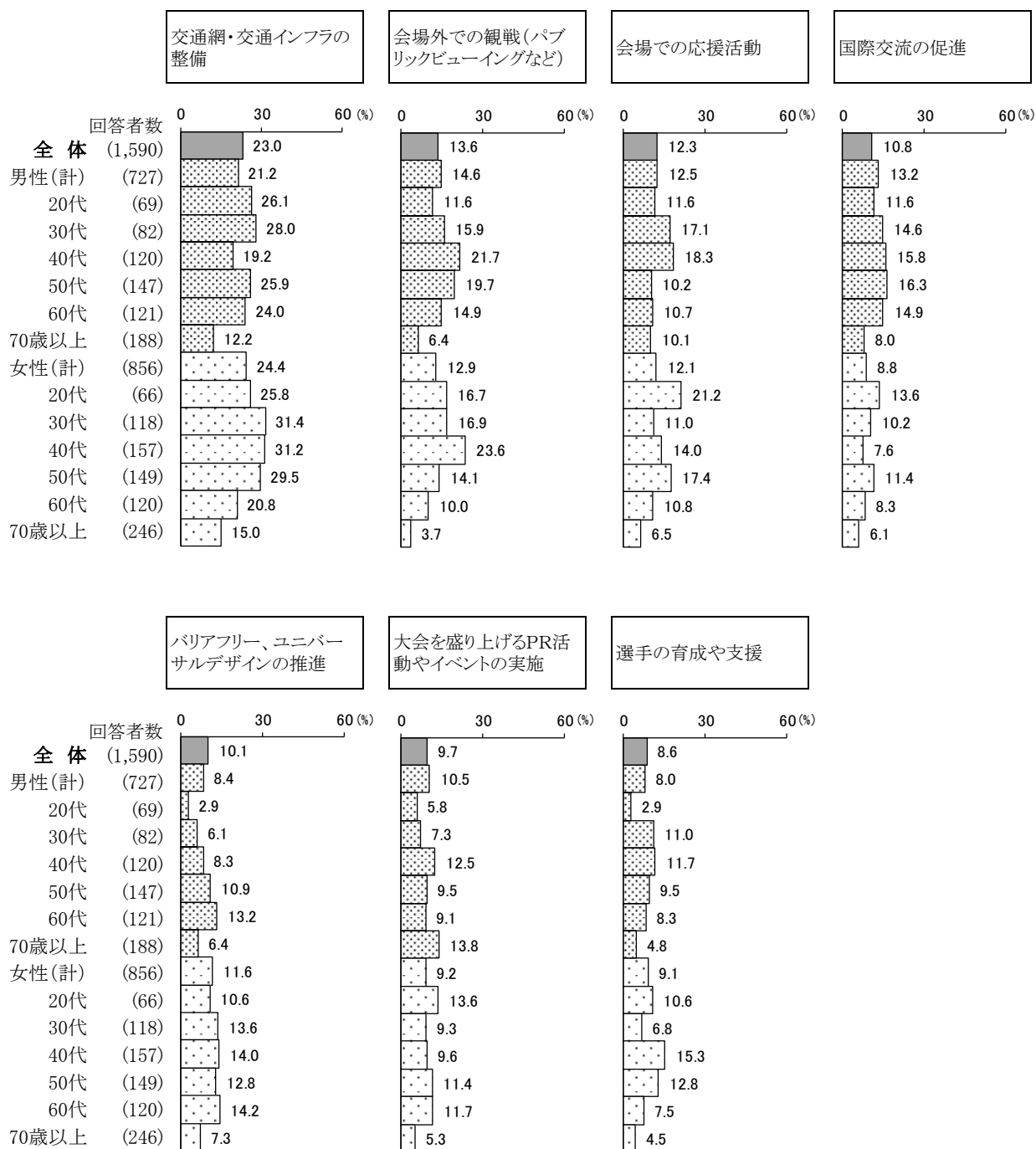
性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」は40代と50代が2割前後で、「会場での応援活動」は30代と40代で2割弱と、それぞれ他の年代に比べてやや高くなっている。

女性では、「交通網・交通インフラの整備」は30代から50代の3年代層が3割前後で、「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」は40代が2割台半ばで、「会場での応援活動」は20代が2割強で、それぞれ他の年代に比べてやや高くなっている。

図6-6-2 性別、性・年代別

／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること／上位7項目

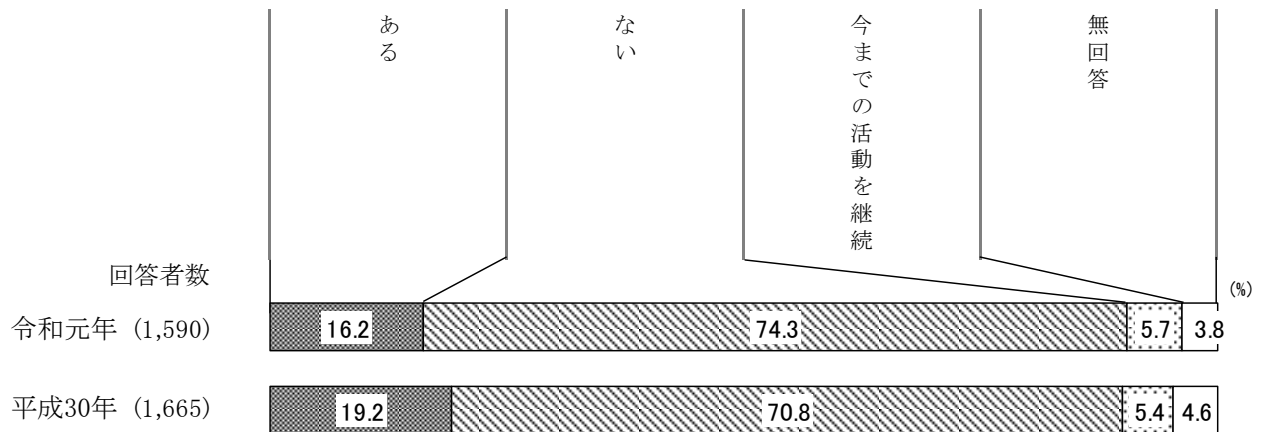


(7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

■ 新たに始めたい活動がある人は1割台半ばみられるも、「ない」が7割台半ばと多数

問30 東京2020大会はスポーツ・文化の祭典です。さらに、ボランティアが活躍できる場でもあります。そこで、あなたが新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動などがありますか（○は1つだけ）。

図6-7-1 前回調査比較／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無をみると、「ある」が16.2%、「ない」が74.3%、「今までの活動を継続」が5.7%となっている。

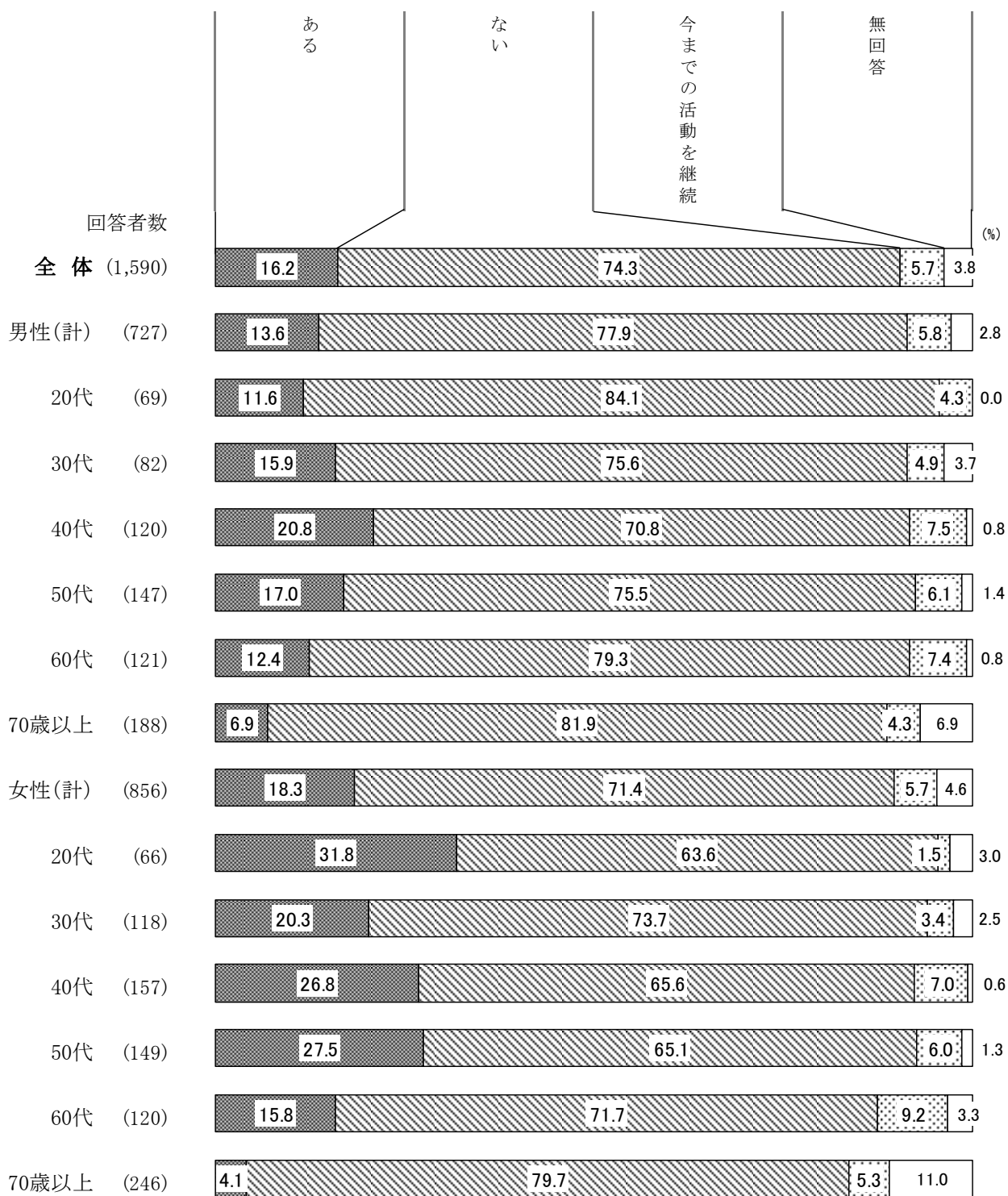
今回の結果を前回と比較すると、大きな変化はみられないものの、「ある」は3.0ポイント減少し、「ない」は3.5ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、大きな違いはみられないが、「ある」は女性18.3%で、男性（13.6%）よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は、男性では40代の20.8%をピークに、若年や高年になるにつれてその比率は下がる傾向がみられるが、女性では20代が31.8%で最も高く、40代と50代が26.8%、27.5%で続いて、他の年代に比べて高くなっている。

図6-7-2 性別、性・年代別／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



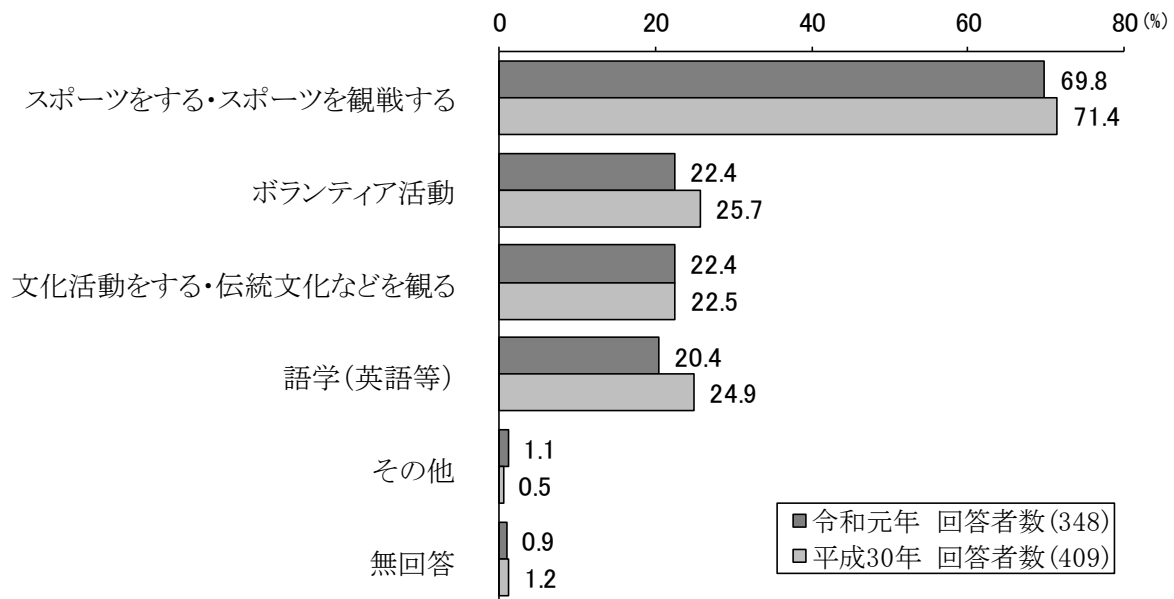
(8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動

■ “スポーツをする・観戦する”が約7割

問30で「1. ある」、または「3. 今までの活動を継続」とお答えの方に

問30-1 それは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図6-8-1 前回調査比較／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動がある、または、今までの活動を継続と回答した人に対して、活動の内容を聞いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が69.8%で最も高く、以下「ボランティア活動」と「文化活動をする・伝統文化などを観る」(各22.4%)、「語学(英語等)」(20.4%)の3項目が2割強で並んで続いている。

前回の結果と比較しても、「語学(英語等)」が前回より4.5ポイント減少しているのを除くと、比率や順位に大きな違いはみられない。

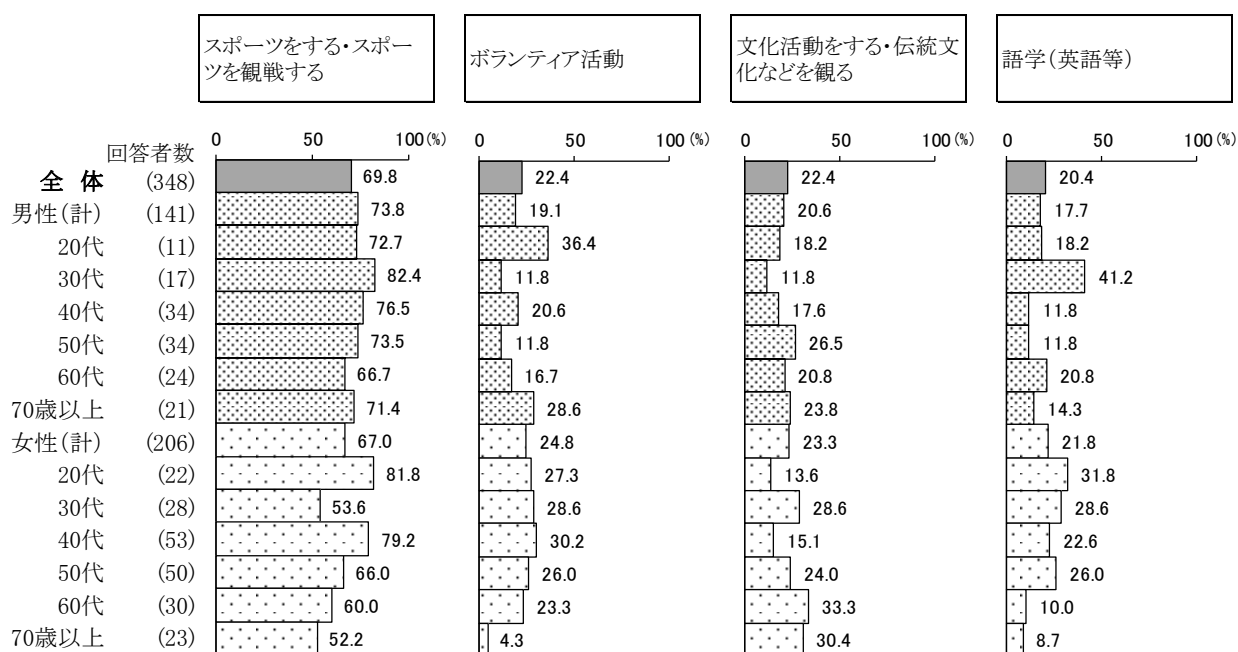
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男女で大きな差はみられないが、男性の方がやや高い「スポーツをする・スポーツを観戦する」を除く他の3項目は、いずれも女性の方がやや高めとなっている。

性・年代別でみると、「スポーツをする・スポーツを観戦する」は、男性では30代で、女性では20代と40代で、それぞれ8割前後と高い。「ボランティア活動」は、男性では20代で高いが、女性では70歳以上を除いて年代差があまりみられない。「文化活動をする・伝統文化などを観る」は、女性の60代と70歳以上が33.3%、30.4%と高いが、男性では50代が26.5%で最も高くなっている。「語学(英語等)」は、男性30代が41.2%でとくに高く、女性では20代と30代が31.8%、28.6%と他の年代よりやや高くなっている。

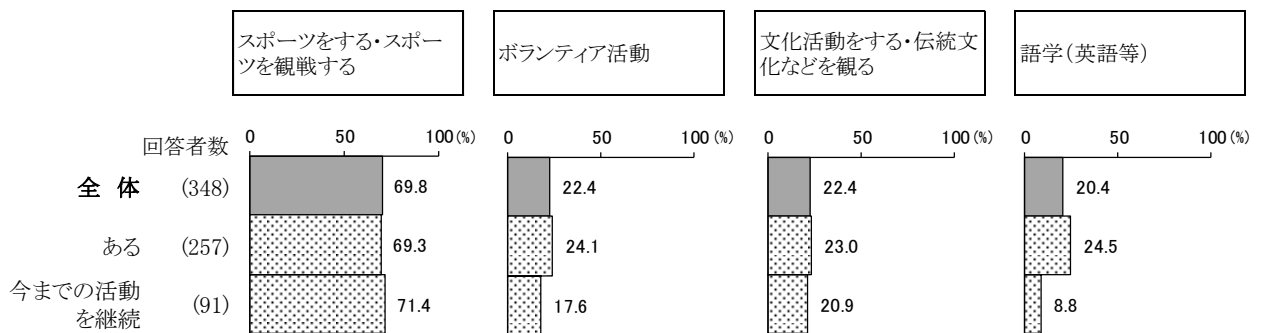
図6-8-2 性別、性・年代別

／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目



新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層、および、今までの活動を継続と回答した層別にみると、「語学（英語等）」を除く3項目については層別による大きな違いはみられないが、「語学（英語等）」は、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層で24.5%と高く、今までの活動を継続とした層の8.8%を大きく上回っている。

図6-8-3 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無別
 ／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目



(9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ

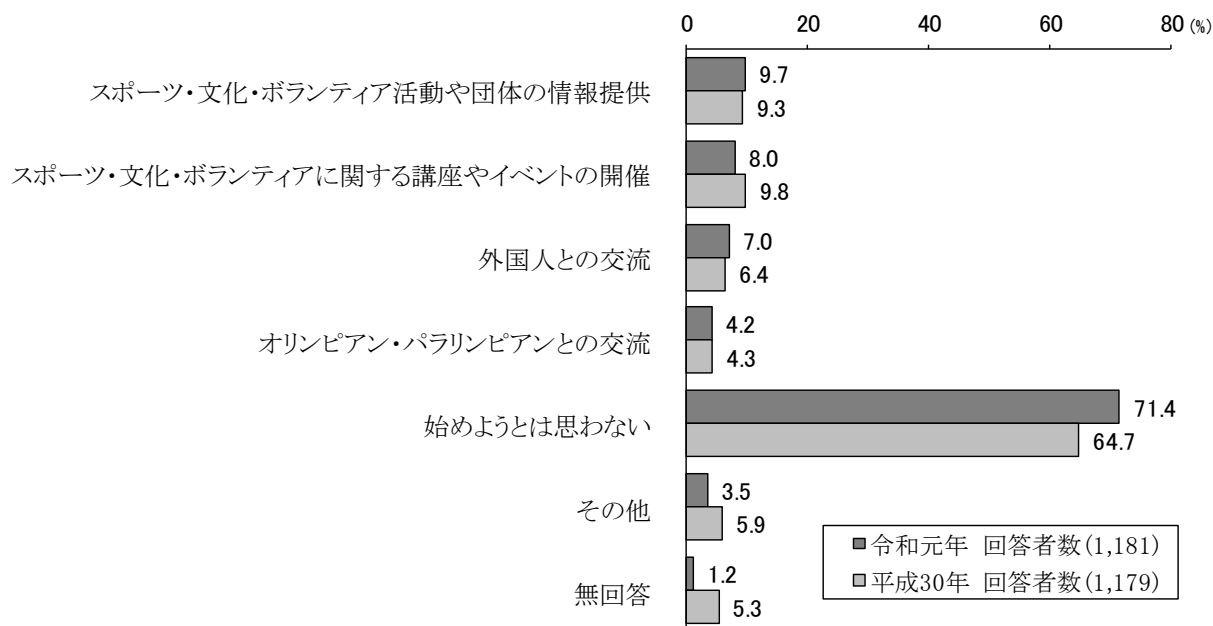
■ “情報提供”が約1割で最多も、「始めようとは思わない」が7割強に達する

問30で「2. ない」とお答えの方に

問30-2 どのようなきっかけがあれば始めてみようと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-9-1 前回調査比較/スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ



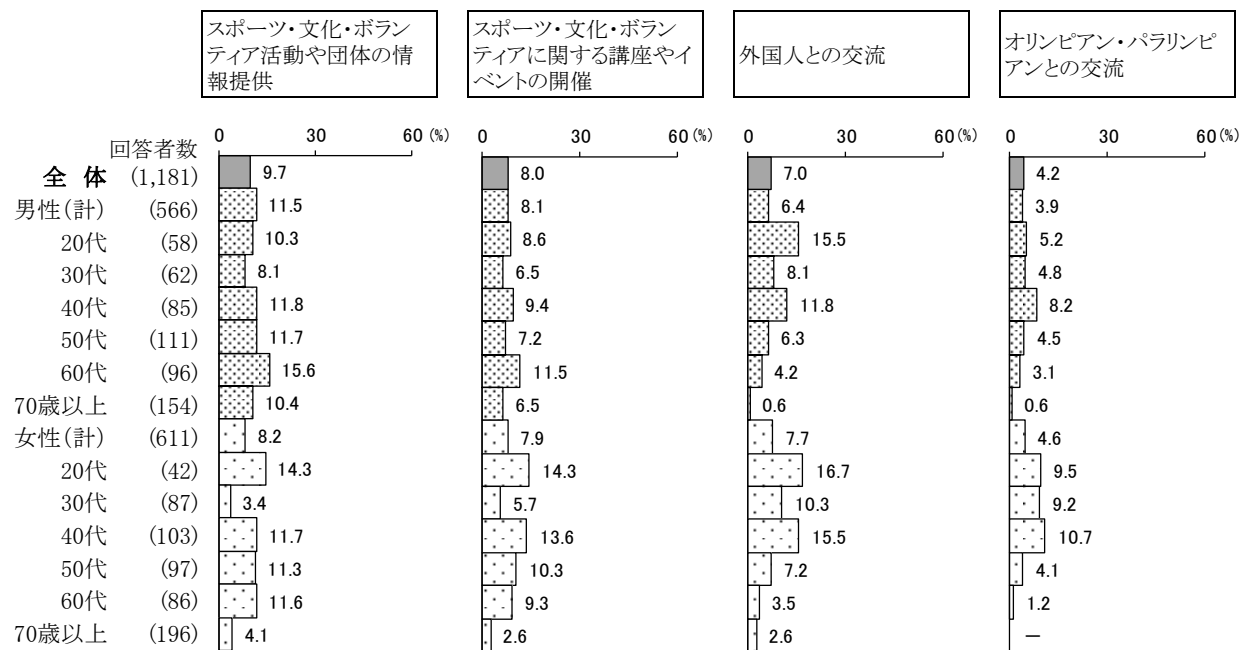
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動はないと回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思うかを聞いたところ、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」が9.7%で最も高く、以下、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(8.0%)、「外国人との交流」(7.0%)の順となっている。一方、「始めようとは思わない」は71.4%となって、7割を超えている。

前回結果と比較すると、各項目の比率や順位に大きな変動はみられないが、上位2項目は僅差ながら順位が入れ替わり、「始めようとは思わない」は前回より6.7ポイント増加している。

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」は、男性では60代、女性では20代で、それぞれ1割台半ばとやや高くなっており、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」は女性の20代と40代でやや高く、「外国人との交流」は男女の20代と女性の40代でやや高くなってきている。

図6-9-2 性別、性・年代別／スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ／上位4項目

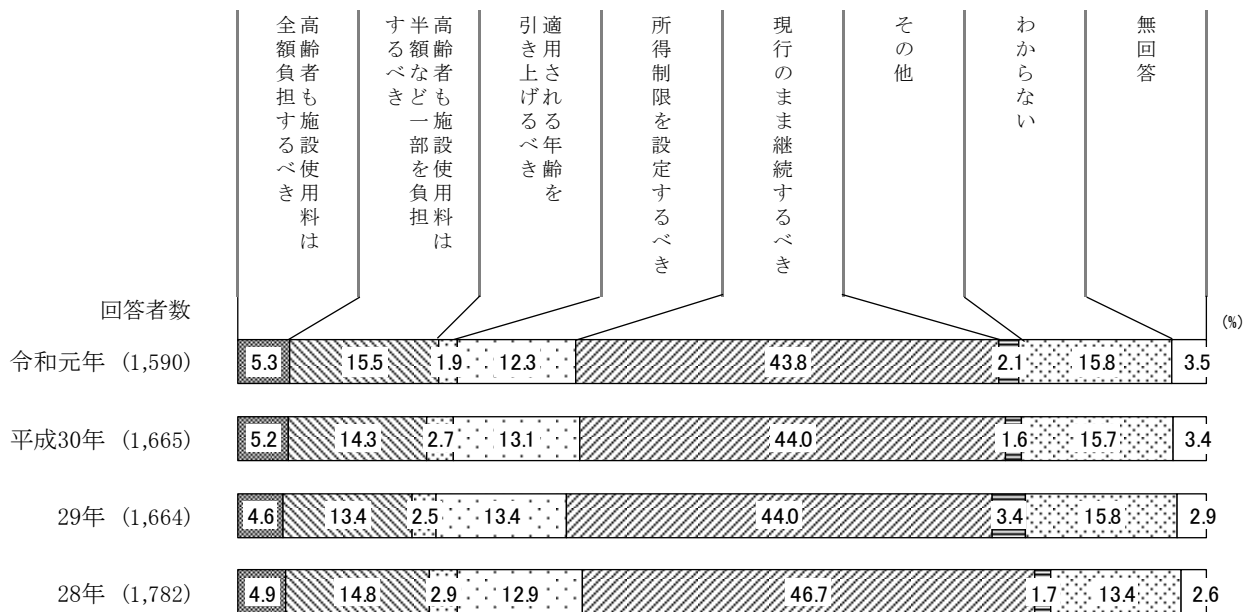


(10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■ 「現行のまま継続するべき」が、これまで同様4割台半ばで主流

問31 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-10-1 経年比較／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続するべき」が43.8%で最も多く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」(15.5%)、「所得制限を設定するべき」(12.3%)の順で続いている。

経年でみると、それぞれの回答分布に大きな変化はみられず、4年続けて似通った回答分布となっている。

性別でみると、「現行のまま継続すべき」は男性43.3%、女性44.3%で、他の選択肢の比率も含めて、男女の回答分布に大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代と40代で「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」が22.0%、18.3%とやや高く、50代と60代では「現行のまま継続すべき」が51.7%、51.2%とともに5割強で高くなっている。

女性では、40代と50代で「所得制限を設定すべき」が17.8%、18.8%とともに2割弱で高くなっており、50代と60代で「現行のまま継続すべき」がともに5割強と高くなっている。

図6-10-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

